

光記念館 研究紀要 人文科学

第5号

平成18・19年度

光記念館 研究紀要 人文科学 2008.3

Hikaru Memorial Museum

第5号

平成18・19年度

平成18・19年度 光記念館 研究紀要 人文科学 第5号

平成20年4月1日発行

編集・発行 光記念館

〒506-0051 岐阜県高山市中山町175

TEL 0577-34-6511

FAX 0577-34-6065

<http://H-AM.jp/>

Hikaru Memorial Museum

Hikaru Memorial Museum



www.H-AM.jp

目次

人文科学

論説

書人 右卿の軌跡.....	3
光記念館理事長 岡田泰六	

展示研究

地域に根ざした博物館活動の展開～地元の伝統工芸（飛騨根付）再興のために～.....	12
光記念館学芸員 今泉たまみ	
新たな展示の試み～教育普及を中心として～	16
光記念館学芸員 松本庸子	

講演会

エジプト博士の展示解説.....	22
エジプト文明研究家 村治笙子	

教育普及活動

出張美術館 5 年間の実施報告～小・中学校に対するアウトリーチ活動～	28
光記念館学芸員 大石裕子	

書人 右卿の軌跡

岡田泰六
光記念館理事長

本稿は3回連載中「書人 右卿の軌跡」の第2回です

4 節 ——比田井天来との出会い——

右卿の人生における一大転機（てんき）は1928年（昭和3）3月に起こった。かねて川谷尚亭から聞かされていた比田井天来が大阪に来遊し、右卿、尚亭からそのときの墨磨り役を命ぜられたのである。そのとき右卿は、初対面で天来の悠揚迫らぬ態度に尊敬の念を篤くした。「40代から翁と呼ばれた人だけあって、どこか高貴さを感じさせる大人であった。佐久間象山を偲ばせる貫禄で堂々と辺りを圧するかに思われた」——現代書道教室（筑摩書房）と述懐している。

天来書法を求める人々は全国に広がり、天来は多忙で次の出張先が決まっており、3日間で100点書きまくるという。そのために右卿は大量の墨を磨らなくてはならなかったが、臨書や作品制作を終えた後に天来と酒席を共にして書論を訊くことのできたことは幸運であった。天来との邂逅は、右卿をしてプロの書家として立つことを決意させた。

天来は右卿に次のように語っている。「いい書を書こうとすれば、つまり古法によらなければ駄目である。古法書を勉強するというのも、所詮はこの優れた用筆法を体得せんが為のものである。今の新法とは全く違う。自分は苦心してこれを発見したものだが、教えることはできない。しかし君が盗み取ることができるならそれは勝手だ」——現代書道教室（筑摩書房）

天来は雁塔聖教序や王羲之の草書などを臨書して見せてくれたという。このときから右卿の執筆法は廻腕法から単鉤法に変わった。「毅然として学書の大道が拓けたような、そしてまた恐ろしい難関が立ち塞がったような、強い感激を受けた」——現代書道教室（筑摩書房）と当時の感想を述べている。

高知に帰った右卿は書にのめりこんだ。旧版の「書道全集」（平凡社刊）などを頼りにして王羲之の喪乱帖、蘭亭叙、褚遂良の雁塔聖教序、顔真卿の争坐位稿、空海、嵯峨天皇、橘逸勢の三筆の書、光明皇后の御書楽毅論、さらには幕末の貫名菴翁の書などの臨書に努めた。なかでも弘法大師・空海の書は右卿にとって格別の輝きを以て迫ってきた。風信帖や灌頂記は手指に硬いタコができるまで習った。そしてやがて天来が再発見した「古法」は、実は空海の書の中に宿っていることに開眼した。

右卿は「八面出峰」による自然（じねん）の用筆法を得心した。飽くなき古典への猟渉研鑽にみられる右卿の性情は、ある意味で病的とも言えるもので「凝り性」は昔の匠の職人を思わせる。その性情は、臨書はもとより好きな酒、タバコ、麻雀にも及び、やりだしたら止まらないという点は同じである。天来によって古法を示唆された右卿は必死にその実相を探究し、ついには高知の医学博士・広田聴雪との交わりの中から「左手線」という運動力学上の研究にまで至っている。

1931年（昭和6）夏には高知市で甲子書道会主催の書道講習会が催され、中央書壇からは比田井天来、尾上柴舟、鈴木翠軒、上田桑鳩、比田井南谷らが訪れた。このとき右卿は幹事役の一人として翠軒や桑鳩、南谷らと交流を深めた。

1932年（昭和7）1月、師父とも仰ぐ川谷尚亭が47歳で急逝した。右卿ら門人の衝撃は計り知れないものがあつた。右卿は土佐書道協会会長の野村茂久馬と今後について相談した結果、協会を発展的に解消して新たに「南海書道会」を発足させることになった。同時に司牡丹の竹村源十郎社長の長男が経営する文英堂の後援によって「南海書聖」を創刊した。この編集実務を担当したのは、当時まだ17歳でしかない右卿の実弟・南不乗であった。「南海書聖」は古典学書の方法論を支柱としていたが、青墨淡墨の実験なども試みら

れ、現代書への萌芽がみられる。誌上では宇野雪村、荻原冬珉、平岡朴斎、森岡子龍、小川瓦木、岡部蒼風、武士桑風、伊藤神谷らが登場している。これは川谷尚亭の「書之研究」以来の流れがあったが故の参加であろう。

師父尚亭を失った右卿は、尚亭と肝胆相照らす間柄であった比田井天来に就くことを考え始めていた。この頃、妻葉との仲は急速に悪化していた。葉との別居を機に、右卿は思い切って上京することを決意したのである。

5 節 ――上京後の時代――

1935年（昭和10）右卿は古法完成を志し、捨て身の覚悟を以て故郷土佐を後にして上京した。高知市八軒町にあった「南海書道会」の塾と「南海書聖」の編集責任を第一の門人山崎大抱に委ねての上京であった。

右卿は早速天来の居る鎌倉の「書学院」を訪れ挨拶を済ますと、小町通りのすぐ近くにアパートを借り、そこから毎日書学院に通って天来の用筆法を学んだ。

天来は右卿を弟子としてではなくまるで客人のように接したこともあり、右卿は天来の大きな人間性に魅かれていった。比田井天来門には上田桑鳩、桑原翠邦、金子鷗亭、大沢雅休、鮫島看山、鈴木鳴鐸などの新世代の書人が集まり、すでに1933年（昭和8）には上田桑鳩を中心に「書道芸術社」が結成され、「現代に生きておる吾等には、自ら現代の書がなければならぬ」と宣言した。右卿はこれらの同人たちから歓迎された。そして書論ばかりでなく広く芸術論を語り合うことができたことは右卿にとっても幸運なことであった。

右卿は自家菜籠中に収めた古典研究を天来のもとで完成させたいと願っていた。数千年に及ぶ書道史の中で、古法側筆と呼ばれる用筆法は消えていった。右卿によればそれは唐の褚遂良（ちよすいりょう）の頃まで存在したが、顔真卿の時代から新法（直筆）が盛んになったという。いわゆる顔法の流布に他ならない。

古法の理論は後述するが、東晋時代の321年に生まれたとされる王羲之の古法を現代に蘇らせたのが、近代書道の父と謳われた比田井天来である。このことの重大性は強調し過ぎることはない。

しかし天来はこの用筆法を秘法として保ち、直接門人に教えることはなかった。なぜならそれを妄りに教えることは邪法につながる恐れがあると考えていたからだ。この古法を全き形で修得したのが手島右卿に他ならない。あまつさえ右卿はその用筆法を周囲に伝え、門人に伝授した。つまり新法に対する古法という用筆法概念が世に復活したのは、右卿の活動によるといえるだろう。

1937年（昭和12）第1回大日本書道院で特別賞金牌を受けた右卿は天来の側近の一人として動くのだが、書学院に通い続けて半年ほど経った頃、天来は「君の書は古法のようなが誰に教わったのか」と尋ねた。右卿は「先年、天来先生が大阪に来られたときその用筆法を見て質問すると、先生は『古法』であるとお話になった」と答えている。すると天来は「目を丸くして呵呵大笑」したという。それは師天来からの右卿への賞賛の言葉であったろう。右卿は書学院という恵まれた環境の中で書の蘊奥を究めようと精進した。

その比田井天来が逝去したのは1939年（昭和14）1月のことで、天来一門は悲嘆にくれた。書壇の最高峰をゆく天来の死は、一門の行く手を左右する出来事であった。

右卿は書学院で発行された「書勢」に次のような追悼文を寄せている。

『わがむねのうつろになりし心地して

君が影なきやどのさみしさ 小琴

五日の朝、東京に移された御遺骸の傍に、ふとこのお歌を拝して胸が塞がる思いがした。おゝ、このお歌の心こそは小琴先生のみならずとも、家の子郎黨（ろうとう）ならずとも、同じく先生を慕いまつる誰もの齋（ひと）しき淋しさではなかったか。聲出づれば張り上げて大空にも叫びたい。けれどいかに叫べばとて

先生は歸っては來ないのだ』――書勢（書学院）

哀切の短歌にある「小琴」とは天来夫人のことである。そのころ、比田井小琴は、かなの名書家として知られていた。天来について僅か四年、師を失った悲しみは巨しく深く、さてこれから書壇に飛翔しようとした矢先であったことも右卿の落胆を大きくさせたに違いない。

翌年の1940年（昭和15）、右卿は同じ書学院に学んでいた安高みや（小華）と再婚している。結婚の準備その他は盟友の上田桑鳩が取りしきり、中野の日本閣で挙式を行った。近代書道の牽引者であった比田井天来が没し、「大日本系」の俊英書家たちはさらなる書の革新運動を展開し、斬新な思潮へと向かっていった。そんな中で、1941年（昭和16）太平洋戦争が勃発、社会は一変した。

1942年（昭和17）右卿は陸軍航空技術研究所の講師を命ぜられ、五月には興亜書道展審査のため南京へ出張が命ぜられた。1943年（昭和18）9月、戦争の最中にあって右卿は恩師・川谷尚亭の遺墨展を、銀座鳩居堂で開催した。後に「これは私の久しい願望であり、命のある間にやっておかねばならぬと決行した」――現代書道教室（筑摩書房）と語っている。

1944年（昭和19）になると決戦非常措置により食糧事情は極端に窮迫、戦局は日に日に悪化した。そうした苦難の中で右卿の二女は悪い食物にあたり、僅か1歳半の幼い生を終えた。右卿は少女の死に哭泣し、供養のために観音経と般若心経百幅を書き続けた。

1945年（昭和20）になると昼夜を分かたぬ全国的空爆が続き、母子を疎開させ一人で代々木上原の四軒長屋の家を必守した。8月15日、ボツダム宣言を受諾した日本の焼け残った代々木上原の一角で、右卿は門人ら数人とヤミ酒やドブロクを注ぎながら会飲し「書を滅ぼしては、ほんとに日本は消滅するぞ」と手を取り励まし合ったという。

6 節 ――代々木上原の時代〔1〕――

大東亜戦争において降伏した日本は、1945年（昭和20）8月末にマッカーサー元帥が最高司令官として着任。GHQ主導の憲法が作成された。労働者の団体権の保障、教育の自由主義化、そして婦人の解放からなる5大改革指令を発し、GHQ改革をスタートさせた。

戦後の書壇は豊道春海、尾上柴舟、田中真州、飯島春敬、手島右卿らが1945年の12月に「日本書道美術院」を結成し、日本の復興と共に直ちに書壇再建運動をスタートさせた。そしてここに右卿の書の新しい造形性を希求する時代が展開されることになった。右卿は翌年の1946年に日本書道美術院の理事に就任し、8月には「再建書道展」が再建された。1947年9月は日展参加運動の委員に挙げられ、尾上柴舟、豊道春海とともに活動し、11月には書道芸術院に参加し総務理事に就任。戦後書道の復興に努めた。

1948年1月、右卿は自らの書塾「蒼龍社」を解散して、新たに「抱雲会」を結成。3月には日本書道美術院を運営方法に齟齬を来たしたとして離脱。8月に毎日新聞社主催の「第1回日本総合展」が開催されるにいたり、その運営委員を委嘱され、優品「夏昼偶作」（七絶）と「秋色詩」（七絶）を出品した。

そして日展5課に書が新設され、書の芸術性を競う時代が到来した。当時、文展、帝展以来の官展として長い歴史をもつ日展の権威は巨大であった。書が文字を書くだけではなしに美術として認知されたからには、いかにこれに応えるかが大きな問題であった。

日展において右卿は杜牧詩「山行」を出品した。右卿はこの作品を「新潟の妙高に遊び、重疊する連峰と群雲の浮遊するを観て、ふとこの構想を得た」と述べている。書道評論家田宮文平によれば「この作は伝統の間架結構、分間布白を無視するかのような古隸風の文字を紙面一杯に字間行間もなく造形したものである」と評した。さらに田宮文平は、「こんな発想はそれまでの書には考えようもなく、明らかに『美術』として書を意識した果敢な実験であった」――墨150号（芸術新聞社）。

しかしこのような発想は、それまで伝統書を書き続けてきた旧守派の指導者たちには理解されることはな

く、「するめいか」「ゆかたの染め抜き」などと酷評され、巡回展からも除外されてしまった。

1949年の日展で右卿は審査員を委嘱され風香の書「背山臨濤」を出品。これは少字数書作品である。少字数書とは、一字から四字までの書のことをいう。戦後初めて日展を鑑賞に来られた昭和天皇皇后両陛下は「背山臨濤」の前に立ち止まられた。皇后陛下は書の構成に興味を持たれ、山の字の前に広がる空間を指されて「海が広がっているようですね」と感想を述べられた。天皇陛下は「そこに舟が浮かんでいるように見える」と語られたという。

1950年（昭和25）5月には日本書作院が結成され参加、副会長に推される。11月の第6回日展において「山居秋暝」を出品した。この二曲屏風の王維詩の書は、王羲之、空海、嵯翁等によって古法を窮めて生まれた優品であり、右卿は「山居秋暝」によって古法が完成に近づいたことを示した。

1951年、50歳になった右卿は「社団法人日本書道連盟」の設立と共に理事に就任。少字数書「吟風弄月」（第一回書作院展）、「論心酒一樽」（第3回毎日書道展）、「帰鳥」（第7回日展）などを発表した。

1952年（昭和27）は右卿にとって大きな節目となる年となる。4月28日、この日サンフランシスコ講和条約が発効し、日本は主権を回復し独立国として再出発した。この記念すべき日の夜、手島右卿は門人の徳野大空、山崎大抱、大浦安浦とともに明治神宮に参拝して純粋なる書作家集団を目指す「独立書道会」（独立書人団）の結成を報告し、万歳を三唱した。

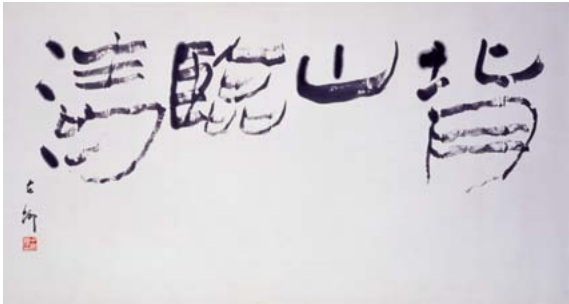
「理念を一にする同志の集まりが独立である。独立の2文字の中には会員一人ひとりが独立した真の作家となる希いが込められている」と右卿は創立精神を宣した。爾来、独立書人団は、手島右卿の標榜する古典に根ざした現代書の開発を柱として、今日の書美の追求を大きな柱として歩み続けている。その年の日展には「出門一笑大江横」という楷書作品を発表した。これは古朴の楷書によるものであって前代未聞の書風といわれた。

1953年1月の第1回独立書道展に「稲紋」「臨蘭亭叙」を出品した。王羲之の蘭亭叙の臨書は朱墨で書いている。宋時代の高価な朱墨と家に出没するネズミに喰われたとされる細くなった筆を使用して一気呵成に背臨した。それは六曲屏風となって独立展に発表され話題となり、王羲之の古法の用筆法を現代に甦らせた記念碑的な佳作である。

尚、右卿の古法への探求を語る上で欠かすことのできない歴史上の人物がいる。それこそ真言宗の開祖・弘法大師空海である。空海は774年に讃岐国多度郡に生まれ幼名は真魚（まお）。804年には遣唐使藤原葛野麿の第一船により最澄らとともに入唐し、長安に到り、青龍寺の恵果に就き密教大法の伝授を受けた。806年に帰国し、翌年、「請来目録」を平城天皇に献じた。天才的宗教家・空海は唐において密教だけでなく書法にも深く参入し、東晋の書聖王羲之の古法を修得したとされる。その墨跡が「風信帖」「灌頂記」等にみられる。

この古法を学ぶために右卿は空海を徹底的に研究する必要があった。なにしろ、自ら〴〵空海狂、といって讃仰して止まなかった右卿である「習っても習ってもその奥が知れない」と言って、空海に対する右卿の思いは深まるばかりであった。そしてその思いの深さは結局、「空海は人間が偉いからだ」という結論に達したようである。

古来より「書は人なり」というように、書は技術、伎倆の背後にある人間の巨きさが最後にものをいうという。右卿は身を以て実験的に追求した結果、空海の真実（ほんとう）の偉大さを痛感したのであろう。今日、王羲之の真蹟は存在しないが、空海の真蹟は存在する——それこそは書を志すものの偉大なる道標であることを右卿は信じて疑わない。



背山臨濤

7 節 ――代々木上原の時代〔2〕《臨書と創作》――

戦後の一字書の嚆矢は1954年日展に発表された「虚」であった。書道評論家の田宮文平は言う「『虚』から始まる1字または2字の少字数書は、手島右卿の書におけるモダニズムの時代の始まりである。一作ごとに美意識を確信する制作態度に、やがて新世代の書人たちから『こんどはどんな書を発表するのだろう』と固唾を呑んで見守られるようになった。」——墨150号（芸術新聞社）。

たしかに右卿におけるモダニズムの展開は、第二次大戦後の開放的な社会風潮を映したものであるといえるものだった。しかし、田宮によれば右卿の斬新な書は、彼の臨書体系の確立と表裏をなしていることを見逃してはならないと主張する。右卿は比田井天来によって古法に開眼したが、それを方法論化し体系化することが大きな課題であった。つまり、古典のあくなき臨書と一作一面貌の創作によって、古法の在り方を世に示したのである。

右卿は「虚」を発表した年に臨書体系への新たな取り組みを開始し、「右卿臨書集成」を刊行しはじめる。それは大正期に比田井天来が世に問うた「学書筌蹄」（全20巻）を意識したものといわれ、「学書筌蹄」で天来は師風相伝の学書の方法論を廃し、古典臨書によるべきことを実践的に提唱したのであった。しかし右卿が目論んだこの臨書体系確立は途中で体調を崩したりして、「右卿臨書集成」は八巻で終わってしまったのである。

右卿は臨書を方法論化しながら、比田井天来とは時代感覚の異なる臨書体系を確立しようとした。田宮によれば、「それは本質において師天来と共通しながらも、たとえば線表現における光の捉え方などにおいて臨書の方法論もまた、リフレッシュする必要があった」——墨150号（芸術新聞社）というのである。

右卿の「臨書集成」は八巻で終わってしまったが、死後15年を経て新たに「手島右卿大観臨書篇」（独立書人団発刊）が刊行した。それは甲骨文、金文、篆書という書体別を始めとして、法帖や碑拓の名がほぼ190程網羅されている。ここに右卿の生涯85年における実践的書研究は、直門の手によって復活したのであった。

右卿の高弟戸田提山は言う「量だけの問題ではない。質的な面から言えば、右卿独特の〴〵背臨、を挙げねばならない」——（2001年手島右卿作品集序文）。右卿の背臨は途中で一度も原典を見ることなしに一つの古典全部を暗記して、古典の形のままに、あるいは或る古典に生命力を与えて再現することが可能であった。たとえば、1961年（昭和36）中国の北京での書会の際には「争座位稿」の半分、600字ほどを満座の中で実演している。

しかし、右卿は新しい書を創作するためには、これまでの伝統的な多字数書を止揚して、少字数書による創作活動を展開しなくてはならないと考えていた。多字数書はその多い文言をこなすためには技法のみに頼った章法（構成）に主力を注がざるを得ず、どうしても象徴に対する意図が薄れるという。それでは作品の燃焼度が分散される恐れがある。つまり、生命の表現力をコントロールしなくてはならないという点において多字数書は困難が伴う。100字なり200字なりをすべて完璧にこなし、しかも芸術的に満足に足る作品を創ることは至難の業に相違ない。しかるに1字又は2字、多くても4字くらい迄ならば、その燃焼を伴う完成度はより高いものになるのではないか——この弁証法的論理が多字数書から少字数書に変換を促すことになったのである。

書の歴史を振り返ってみると、その伝承の在り方は伝統そのものに主体をおき、伝統の形と心をそのまま受け継いでいくという方法が主体となって、一般的には流儀書道を盛んならしめていった。その形骸化の止揚にこそ、右卿は自ら独立書人団（1952年）を興す必然性があったに違いない。彼が興した独立書人団という作家集団は積年の鍛錬によっていかなる成長を遂げたのか——そして今、現代社会はいかなる変容を遂げたか——あくなき創作活動を続ける独立書人団は右卿の古法に基づく「象書」の成長を目指して苦闘して

いる。

「象書」——この聞きなれない書法を創始したのが手島右卿であった。象書の創始は、古法の用筆法を以て成されたものである。古法の詳述は後に譲るが、そもそも象書とは1字または2字の少字数書の創作に他ならない。

1954年（昭和29）10月の第10回日展に発表された「虚」。これは右卿自ら命名した「象書」の濫觴であって、書道史に一字書の嚆矢として記述されるべき作品である。象書とは文字の持つ意味内容を表出すると共に、東洋的哲理を象に表したものに他ならない。右卿は古典を追求し、古法を苦心惨憺の末に完全なまでに咀嚼してその上に立って独自の少字数書の創造を成就した——古典の臨書かたうの必然として右卿は創作に向かう。その全霊を以て書き上げた作品が「虚」となって結実した。能舞台を踏むその寂静の中に動きを形に換え、張り詰めた緊張感を空間に漂わせている。虚実の相（すがた）——幽現一体化した宇宙を構成している。



虚



抱牛

8 節 ——代々木上原の時代〔3〕《象書の展開》——

1955年、昭和30年代に入ると右卿はついに独自の世界を切り拓いていく。1958年（昭和33）ブリュッセル万国博の「近代美術の50年展」に指名されて「抱牛」を出品。

「抱牛」は近代美術50年展で、マチス、ピカソなど世界の巨匠に伍して日本書道の持つ高い芸術性を世界に示し得たことによって、右卿の書の世界性がはじめて認知されたといえよう。「抱牛」の書体の「抱」は草書、「牛」は篆書でいわば破体ともいうべき組み合わせで構成されており、ここに造形と墨彩において右卿のスタイルが確立した。東京国立近代美術館がこの作を書としてではなく美術として収蔵したのは、その造形と現代性によるものであった。

次に、1957年（昭和32）に独立展に出品した「崩壊」は、井上有一とともに指名されて同年のサンパウロ・ビエンナーレに送られ、書の国際化が推進された。「崩壊」は「抱牛」と並ぶ右卿の代表作である。

このすぐれて記念碑作品は、第二次世界大戦の空襲によって次々と建物が崩れてゆく凄絶な光景を、自ら創始した「象書」によって書き上げたものだった。妻子を疎開させ、一人代々木上原の陋屋の中で米軍機B



崩壊

29の投下する爆弾——すべてを滅ぼし尽くす巨大な炎を、身を震わせながら眺めていた右卿は、戦後10年の構想を経てそのときの心に刻まれた光景を「崩壊」に結実した。

ビエンナーレ展に出品した「崩壊」について、国際美術評論家連盟のペトローザ副会長は「これは物質が崩れていく様子を描いたものではないか」と評した。全く漢字の判らない外国人にとって、書はただ理解しがたく神秘的なものでしかなかった。しかし右卿の唱導する少字数書、就中、象書という新しいジャンルの開拓によって漢字のもつ象形性を書線によって表現し、文字の持つ意味を外国人にも伝えることができることを可能ならしめたことの重要性は、強調しすぎることはない。

1959年（昭和34）1月の第7回独立書展には「吟月」を出品。四月の西ドイツカッセルドクメンタ59展に「捫虱」。同月日本代表展に秀潤温雅の書「寂」を出品している。

1960年（昭和35）1月の第八回独立書展に「抜」、「苔」を出品。7月の第1回抱土社展に「岳」を出品。11月の西ドイツフライブルグ展に流麗な「燕」を出品した。「燕」の書線は空中を飛翔するつばめの航跡を示したものとして評価された。

1961年（昭和36）1月の朝日20人展に「現生不退」、「飛」を出品。同月第九回独立書展に「輪廻」を出品した。

1962年（昭和37）1月の第10回独立書展に独特の墨色を発する「愚直」を出品。7月の天来遺業展に「坐」を出品。11月の第5回日展に「洗耳」（ベルギー王立博物館蔵）を出品した。

1963年（昭和38）1月、現代日本書家30人展に



愚直



捫虱



坐



燕

清澄にして高雅な「観」を出品。同年4月、紺綬褒章を下賜される。11月、ドイツバーデンバーデン「書法と形象展」に「叩」を出品。

1964年（昭和39）1月、現代書道名家20人展に自然^じの書「大悲」を出品。7月、第7回毎日書道展に幽玄なる代表作の一つである「竹」を出品。同月日本書道名家選抜展に「雲行」、「雨」（ベルギー王立美術館蔵）を出品。

1965年（昭和40）1月、第9回朝日20人展に「披」、「寂照」を出品。その後右卿は長年の不摂生がたたなり、胃潰瘍の大病を患い生死をさまよった。その中で書かれたのが第8回日展に出品した「幽人獨在雪月中」である。冬月の幽玄な世界を現出させた。作品は東京国立博物館に収蔵された。11月、現代書道展に「大道」（ベルギー王立美術館蔵）を出品。

1966年（昭和41）1月、第10回朝日20人展に「断雲」を出品。10月、日本書道専門学校を設立、初代校長となる。11月の第9回日展に「藏真」を出品。

1967年（昭和42）1月、第15回独立書展に「成心」を出品。3月日本橋高島店にて個展開催。「無」、「龍虎」、「顔」、「萬福」、「九光十明」等を出品する。5月、外務省よりロンドン日本大使館に作品を委嘱され、「恒心」（ロンドン日本大使館蔵）を制作する。

以上のように昭和30年代、右卿は少字数書による象書作品を次々と発表した。一方、現代書は戦後の前衛書、墨書、近代詩文書などの多様な展開を見せ、特に前衛書や墨書といわれるものは、絵画の抽象表現主義に傾斜し、文字性さえ否定するに至った。この運動に対して日展を中心に激しい批判が起こり、対立した上田桑鳩、宇野雪村らは日展を去った。しかし、新感覚の書表現を提唱する手島右卿は新古典派としての立場をまもり、彼らとは行動を共にしなかった。あくまで古典の臨書体系に拘った右卿は、文字性は書の絶対条件と確信していたのである。

若き日に画家を捨てて書を選んだ右卿は、絵画の領域に踏み込むくらいなら画家になっていたとの思いがあった。絵画と一線を画することは、書家としての正統な立場であると信じていたのであろう。戦後の代々木上原時代という四軒長屋の一角を舞台として、右卿は新しい書表現、`象書。という新ジャンルを確立した。

後年、右卿は代々木上原時代を回想して「未完の時代」と形容した。死の直前に筆者が「生涯の一番の代

表作は何か」と直截に問うたところ少しの間を置いて、「それは『崩壊』であろう」と答えた。いずれにせよ、象書の展開は同時代の作品群に如実に表現されている。上原時代は臨書と創作、その一方ではめくるめく酒とタバコと遊興の日々が在った。つまり、戦後の20年間は、人間右卿の赤裸々な情念の燃焼による波瀾万丈な時代であった。

【参考文献】

1939 書勢（書学院）

1971 現代書道教室（筑摩書房）

1984 南風対談（高知新聞社）

2001 墨150号（芸術新聞社）

2001 手島右卿展図録（独立書人団）



幽人獨在雪月中



竹



飛



龍虎

地域に根ざした博物館活動の展開 ～地元の伝統工芸（飛騨根付）再興のために～

今泉たまみ
光記念館学芸員

飛騨高山の特産物「一位一刀彫」の起源は根付

日本の中部に位置する飛騨高山は多種多様な木材に恵まれ、古くから木彫りの民芸・工芸品が数多く作られてきた。中でも一位は色も木目も美しい銘木で、一位のみを用いる「一位一刀彫」は、飛騨の伝統産業となった。この一位一刀彫、起源をたどると根付に行き着くという。

根付は印章や煙草、巾着等を帯に提げて持ち歩く時、それらが落ちないようにする為の留め具である。簡単なものは千数百年も前からあったそうだが、芸術性と遊び心を表現する精緻な工芸品となったのは江戸時代に入ってからのものである。



『宿探し（栄螺と宿借り）』睦作

根付と一刀彫

江戸時代に高山で木彫を始めた松田亮長（まつだすけなが）は、40歳近くになってから、江戸の根付師で高山出身の平田亮朝（ひらたすけとも）に師事し、数々の優れた根付を生み出した。飛騨からはこの他、広野亮尚（ひろのすけなお）、津田亮貞（つだすけさだ）らの根付師が生まれている。

松田は飛騨に戻り、木目や刀痕を生かして彩色を施さない「一位一刀彫」を完成させた。これが平成の今日まで受け継がれ、飛騨の特産物といえば一番に「一位一刀彫」があげられるほど、地元の産業として定着している。しかしその一方で根付は、優秀な根付師を輩出した飛騨でさえ、明治に入って人々が洋服を着るようになると次第に廃れ、それと共に根付師もまた姿を消していった。根付は“小さいながら宇宙を表現できるもの、木の宝石”として、かろうじて欧米で高く評価され、守られてきたのである。

飛騨根付の再興

飛騨高山在住の木彫家 東 勝廣（ひがしかつひろ）氏は、数年前から一刀彫などの彫り師数人に呼びかけ、飛騨の根付作りを復活させ、卓越した技術を継承していこうと活動を始めた。しかしいざ根付を彫ろう

としても、それまで大きなものを彫っていた職人たちは始めの内は要領がつかめず、いくつもの壁に突き当たったという。そのような折、国際根付彫刻協会の会長で伊勢根付師の中川忠峰（なかがわただみね）氏が指導・協力をして下さった。そして、心ある方々のご協力と彫り師自身の地道な努力によって、次第に根付の作品が出来上がっていったのである。



写真撮影：雨宮秀也

市民とともに創る博物館をめざして

光記念館では開館以来、博物資料や美術品を広く一般に公開し、地域文化の向上と発展、国際交流の推進等に努める事を目的に活動を展開してきた。

また、博物館調査研究委員会が打ち出した「博物館の望ましい姿」の骨子の中に、

・社会から託された資料を探索し、次世代に伝える博物館（コレクション）

博物館は自然や人間の営みの証拠となる資料を集め、調査・研究することにより、その価値を多角的に探索し、人類共有の財産として貯え次世代に伝える。

・知的な刺激や楽しみを人々が分かちあい、新しい価値を創造する博物館（コミュニケーション）

博物館は人びととの対話とさまざまなサービスの提供を通して、人びとの自主的な学習の場となり、生涯学習社会の一翼を担う。そのために、博物館は資料の価値とそれに伴う情報をわかりやすく人びとに伝え、知的な刺激を共有し、共に学び、楽しみを分かちあう。この活動の結果、資料から新しい価値が創造され、博物館が公共の財産として成長し発展していくための基礎となる。

とあり、当館でもそれらをふまえ、活動の中に高山市民を始めとする一般の方々の意見を反映させていきたいと考え、取り組んできた。

地元の文化“飛騨根付”再興の為に光記念館として出来ること

東氏らから依頼を受け、飛騨根付を再興させたいというその主旨に賛同した光記念館では、地元を支援するためにも是非彫り師たちの活動に協力をさせて頂こうと、当館の企画展示室にて根付の作品展を開催させて頂くことにした。現代の‘飛騨匠’たちに技術や作品を発表する場を提供し、失われつつあった伝統工芸を現代に蘇らせ、国内外や次世代に伝える…高山にある博物館として、光記念館がその役割を担わせて頂きた

いと考えたのである。数年の準備期間を経て平成18年9月21日、特別展「飛騨匠 根付展 ～匠の技ここにあり～」が無事に開幕した。また、同時にこの日は出品者（20代から60代までの一刀彫職人ら10数人）からなる「飛騨匠根付会」の発足日となった。

根付師たちの反応

本特別展のポスターには、泰之氏の作品『観月』が採用された。印刷されたポスターを目にした泰之氏の奥様は、「主人はこれまで生活の為に、土産品になり得る作品ばかり手がけてきました。また、彫り師という職も転職せざるを得ませんでした。でも主人が本当に、本当に作りたかったものはこれなんです。」と、瞳に涙を浮かべながら語って下さった。

また、中には沢山の前売り券を購入し、知人に配られた作家もいらした。根付師の方々は、この展覧会が画廊ではなく地元高山の美術館で、企画展として開催されたことに大きな喜びを覚え、自信と誇りを得たそうである。



『観月』泰之作 写真撮影：雨宮秀也

飛騨の匠たちの活動を支援する人々による協力

飛騨地方では江戸時代から現代まで数百年にわたり、お祝い事があると身の回りの小道具で“課題”にちなんだオブジェを作る「飾り物」の文化が受け継がれている。作者の知恵と発想、作品の洒脱さ、見るものにも知的センスが求められるこの粋な遊びは飛騨独自の文化である。

この度の根付展では展示の中に「飾り物」も取り入れられ、ディスプレイに飛騨のオリジナリティーが感じられると好評であった。展示にあたっては、高山飾り物同好会の方がご協力下さった。



『獅子舞』（風鎮）



『鶴亀』（扇子と印籠）



『秋篠宮ファミリー』（左官道具）

飾り物 テーマ：『秋篠宮文仁親王殿下の第一男子 悠仁親王ご誕生のお祝い』

根付展の開催初日、報道陣に対する展示内覧会が行われた。そのオープニングで、根付師たちの地元の友人・知人の有志が雅楽を披露し、会場を盛り上げて下さった。

また、匠たちの心意気に共感した琴の演奏家が『飛騨匠 さやけき明日へ』という曲を作曲され、会期中2度にわたって演奏会を開いて下さった。

こうしたイベントの口コミや、知り合い等地元の作家の作品が見られるということで地元の方が多数ご来館下さったことは、光記念館としても大変有難かった。

『飛騨匠 根付展』の反響とその後の展開

平成18年11月5日、『NHK新日曜美術館』のアートシーンに光記念館の『飛騨匠根付展』が取り上げられたことで、飛騨匠たちは全国から注目を浴びる事になった。銀座の画廊から話が持ち上がり、翌年開催の運びとなった作品展は好評を博し、数百万円の売り上げが得られたという。根付師達にとっては作りたかったものが作れ、それを欲しいという人にも買ってもらえ、収入にもなるという、まさに願ってもない展開となったわけである。この事で高山出身の衆議院議員から「光記念館のお力添えで、貴重な美術品を高山の地で展示し、飛騨独自の伝統工芸を全国へ紹介するという本当に有難い機会が許されております。」と感謝の言葉を頂くことができた。

今後の展望

平成20年9月27日から12月15日まで、光記念館では飛騨匠根付会による『第1回現代木彫根付公募展 ～木の国から世界へ～』の開催が予定されており、飛騨匠根付会では今後、この公募展をビエンナーレ、もしくはトリエンナーレ形式で恒例化させ、しかも国際的なものにしていきたいとの意気込みである。

また、根付作りの楽しさと技を次世代を担う子供達に伝えていきたいと、根付会の根付師たちが講師となり、当館の案内所において根付作りの体験学習が行われた。この企画も今後、カリキュラムを組んで開催される予定である。

光記念館としては、作品発表の場を提供するばかりでなく、当館の博物館活動がきっかけとなって、飛騨高山の伝統工芸が復興し、新しい産業が生まれる…あるいは眠っていた職人の技術が蘇り、新たな職業が生まれる…等々、地域の活性化に貢献していけたら幸いである。



写真：高山市教育委員会主催 土曜教室「根付作りの体験学習」

参考文献

『孫に語る 飛騨の歴史』 山中隆男著 有限会社相互印刷

『博物館の望ましい姿－市民と共に創る新時代博物館（平成15年3月）』（財）日本博物館協会

新たな展示の試み ～教育普及を中心として～

松本庸子
光記念館学芸員

はじめに

光記念館では近年の歴史展示や美術展示において、資料を美しく見せるのみに止まらず、歴史的背景や資料の持つ意味・役割を写真・イラスト・映像・模型などを駆使して総合的に展示してきた。文化・文明の全体像を分かりやすく紹介する事で、来館者の理解を深めるよう心がけてきた。

資料そのものの美術的な価値を伝えるのも大切だが、資料の持つ歴史的背景や役割をさまざまな展示手法で紹介することは来館者の知的好奇心を最も満足させるものと思える。過去の展示で文字のみの説明や偏った説明が目立ち、好奇心を持たない来館者が多くいたのも説明に力を入れた一因でもある。

美術作品や考古資料をシンプルに展示するに止まらず、好奇心を高める手助けとなる新たな展示を常に考えていきたいと思う。

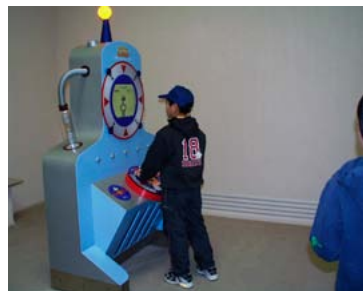
日本の博物館の欧米化

欧米では古くから様々な分野の作品が陳列・展示され、教育普及も視野に入れた展示も工夫されてきた。近年よく耳にする「子供ミュージアム」などではさまざまな展示手法や参加体験を展示の一環に取り入れている。専門家にしか分からないような資料の情報をまず解説パネルの中で目を引くデザインや写真・イラスト・図などを用いて子供にも分かりやすく紹介する。明るい色調だと楽しんで見てくれる。

また、解説パネルだけではなく実際に手に触れて体験できるように工夫している。体験というのは最も理解を深める学習方法ではないだろうか。石器や土器、楽器などのさまざまな道具は実際に手に触れて使ってみないと理解できない所が多い。体験学習には、道具の時代背景を知る博物館職員やボランティアの補助もあるとさらに深く学習できる。出来るだけ、現代の道具や来館者にとって身近なものと比較すると興味を持つてくれる。

また、参加体験学習や美術鑑賞を心的・身体的病のリハビリや認知症予防として養護施設などで実施する機会も増えてきている。知的好奇心や美しいものを愛でる心は人々に大きな影響を与えるため、より効果的な提供方法が今後もっと研鑽されるべきと考える。

博物館の発展を考えると、現状の問題点を反省して良い試みは参考にしていきたいが、欧米に見られるような参加体験型の展示は良い参考と言える。



博物館法の改正と学習支援

新しい博物館法は平成20年に改正された。その項目の一つに教育の一環として学校の博物館利用を重要視し、博物館による積極的な学習支援が求められている。

ただし、移動手段が限られる学校では、博物館へ大人数を移動させることが困難であるという現状が課題となっている。そうした中で注目を集めているのが出張事業である。出張美術館を実施している所では、実物資料以外にも資料の歴史的背景や素材・制作過程などを今までにない視点から紹介している。実物を目の前にすると教科書以上に情報が得られる事に圧倒される。さらに説明することで学習者は飽きることなく興味と関心を高められる。

光記念館も出張美術館・出張歴史館を実施しているが、例えば2時間の授業の中で縄文時代を体験していただくために4つのグループに分けて、①実物資料に触る ②縄文服（復元）を着る ③縄文クッキーを作る ④火おこしの体験学習を行いながら時代の紹介を行なった。子供たちも参加することで興味が出て、記憶に残る授業が行なえた。

博物館は所蔵する資料の展示・公開・保存が大きな役割とされるが、より利用者や地域のニーズに応じていく必要性が出てきた。教育支援に力を入れるのは、法律改正という行政以前に博物館の使命であるため常に試みていきたいと考える。



実物資料に触る



実物資料に触る



火おこし体験



縄文服を着る

通常の文明展示

エジプト展は、日本だけではなく世界各地で開催されており、人気も高い。過去に何度かエジプト展を開催した東京国立博物館や京都文化博物館の先生方に何うと、エジプト展は古代文明展の中で最も人気が高くハズレがないとおっしゃっておられた。何故そこまで人を惹きつけるのか、恐らく、誰でも知っている有名な古代文明であり、実物資料の保存状態が良好で、巨大な石造建築や美術的にも優れたものが多く、文字情報などの情報量も膨大であるからと思われる。

しかし、今までの展示状況はその文明を理解し難い内容であったと思う。私自身も何度かエジプト展に足を運んだが、展示室は長い迷路のような所に展示ケースと資料、資料解説が並んでいるという展示がほとんどだった。そして、長い列を並び来館者でひしめきあう中、ようやくお宝を拝めるといことが多かったと思う。実物資料の存在感や美的価値は伝わってきたが、歴史的な背景を学んでいない当時としては、お宝を見て満足した感の方が強かったと思える。来館者に満足感を与えるのは大事だと思うが、お宝展示で終わって良いのだろうか。素人にも初心者にも分かりやすい展示が必要だと思えた。

今回のエジプト展の試み

平成19年6月1日～9月17日の期間、光記念館企画展示室2室ではエジプト展が開催されたが、地方の博物館として他にないエジプト展にしようと2年がかりで計画した。

まず、展示をテーマごとに分け、実物資料のみではなく、説明写真やイラスト・模型・体験学習コーナーなどを各所に設置し、学習の補助を行った。

①古代エジプトへの誘い

・年表・ガイダンス映像・ナイルの恵みと生活・交易：実物資料・模型

②壁画をひもとく

・壁画の描き方・特徴・古代文字ヒエログリフ・考古学の歴史・世界の古代文明と古代エジプトの比較：実物資料・スタンプ

③ツタンカーメンの部屋

・ツタンカーメン王墓の解説：模型

・来世への旅

・死後の死生観・来世の解説：実物資料・模型・すごろく体験

⑤古代のファッション

・古代エジプトの化粧・髪・香料などの紹介：実物資料・衣装体験・香水体験

⑥古代エジプトの神々

・神々の姿・役割を紹介：実物資料・神話の飛び出す絵本

⑦現在のエジプト

・現在のエジプトの文化・衣食住・産物などを紹介：実物資料・楽器体験

各展示の背景には約2～6mの大きなグラフィックを設置し、写真や図・イラストをふんだんに盛り込んだため、足を止めて展示物や解説にじっくりと見入る来館者が多かった。写真・イラストの合計枚数は400枚を越えていた。監修の村治先生、写真家の仁田先生をはじめ、当館職員の写真・イラスト作成・加工技術や大型プリンターを導入した内部のデザイン・出力があつてこそ、内容の充実したグラフィックを作成することができたといえる。

そして、展示空間は狭くならないように広く取り、展示室全体が見えるように心がけ、各展示の近くに展示の補助となる模型・体験学習・映像を設置した。

体験学習はエジプトの衣装を着る撮影コーナーが最も人気が高く、それ以外の所でも積極的に参加する姿が子供だけでなく大人にも見られた。

また、スタンプラリーや土・日限定のビーズストラップ、小・中学生対象のピラミッドキャンドルプレゼントも人気が高く、キャンドルは6月に緑、7月に青、8月に黄色、9月に赤、全種類集めた子に黒金のピラミッドを用意した所、子供パスポートの売り上げが伸び、リピーターの増加につながった。

今回、飛騨地域初のエジプト展に東京国立博物館から2トンを超えるセクメト女神椅像を、藤沢市教育委員会から約60点の資料を借用し、当館所蔵資料約90点と共に展示することができた。多くの写真・イラスト・模型・映像の展示体験学習等を行うことができたのは、関係各位の多大なご協力あったからことである。内容の濃い展示を行なうには多くの協力者と時間が必要であると実感した特別展であった。



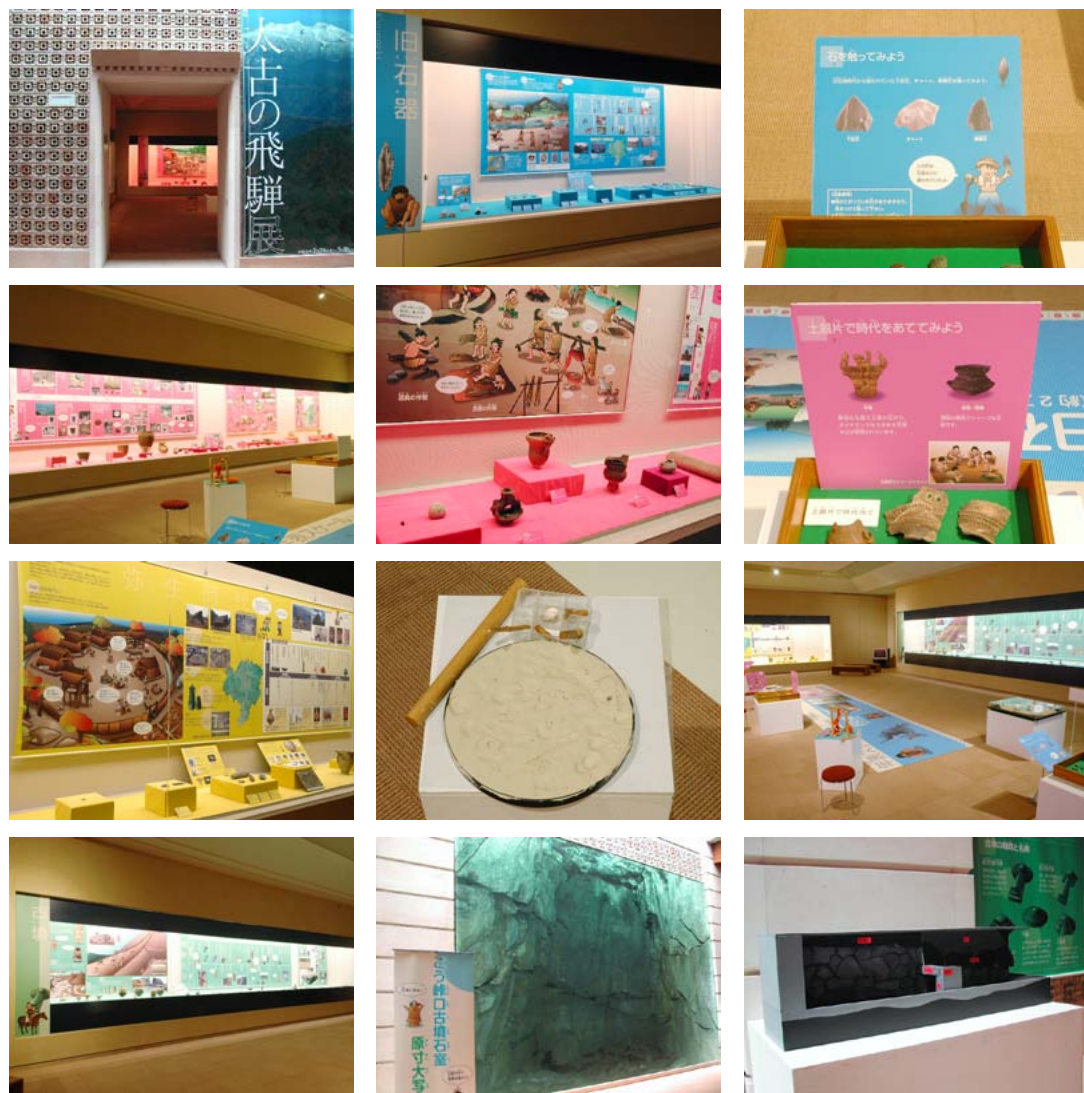


太古の飛驒展の試み

平成20年2月26日～5月18日の期間、光記念館企画展示室1室にて『太古の飛驒展～旧石器・縄文・弥生・古墳～』を開催した。準備期間は平成19年10月～平成20年2月の約4～5ヶ月と大変短く、借用資料や写真も所有者が何箇所にも分かれていたため手続きに苦労したが、各所から多大なご協力を頂いたお陰で無事開催できた。

展示は旧石器・縄文・弥生・古墳の4つの時代に分け、子供に分かりやすい展示を心がけた。具体的には4つの時代の展示ケースを鮮やかなイメージカラーで色分けしてみた。旧石器はブルー、縄文はピンク、弥生はイエロー、古墳はグリーンでグラフィックと展示台のクロスの色を統一し、一目でその時代のものであることが分かるようにした。かなり鮮やかな色合いになるかと心配したが、考古資料に興味のない人も明るい色合いなので好意的に見てくれており、石器や土器が中心となる実物資料も見やすい様子であった。

また、子供向けのイラストや体験学習の、○石器や土器にふれる ○あんぎん復元 ○土器文様を粘土に押す ○石室模型 などは大人にも理解しやすいと好評であった。



おわりに

考古資料は興味や知識のある人には余計な情報や演出は不要かもしれない。しかし、実物資料だけで自分の持つ知識から多くのことを読み取ることができるのは来館者の中の100分の1ぐらいではないだろうか。また、知識や興味がある人でも、より深い理解を求めて展示手法に期待して見ているはずである。

従来の展示は「実物資料よりグラフィックや展示台が目立っては資料を殺してしまう」というある種の遠慮のようなものが感じられた。しかし、実物だけ目立たせても決してその文化文明の全体像を理解することはできない。また、実物資料はどんな大きなグラフィックや鮮やかな展示台にも負けない絶対的な存在感があると確信している。

博物館として実物資料の保存・公開だけではなく、展示のストーリー・演出・情報提供に創意工夫をし、見る側の立場に立った分かりやすく見やすい展示、正しい情報の提示に心がけていきたいと思う。小さなことだが、ネーム一つを少し角度をつけることで「見やすい」と喜んでくださる来館者がいる。そういった心づかいを忘れないようにしていきたい。

エジプト博士の展示解説（抜粋）

講師 エジプト文明研究家 村治瑠子

はじめに

皆さん本日はエジプト展にお越し頂きありがとうございます。

私は今神戸でやっております大英博物館のミイラ展の監修もやっておりました。これから展示室を回って遺物やパネルを見ながらエジプトの魅力を紹介したいと思います。展示のいろいろな出土品の他にグラフィックなどを見ますとエジプトのことがすべて分かるようになっております。東京や他の地域で開催されるエジプト展では古代から現代まですべてを見せる今回のような展示はなかなかありません。

では、これから古代エジプトから現代のエジプトまでを見ていきたいと思います。



ナイルの賜物

古代エジプトを象徴するのはロータスとパピルスです。パピルスから作られた紙がペーパーの語源になりました。茎の部分を使ってパピルス紙の巻物を作りました。一方、ロータスは熱帯スイレンで太陽信仰のエジプトでは太陽神の聖なる花と考えられていました。あちらには池がありますね。みなさんも後程ご自分でボタンを押していただきたいのですが、ナイル川の増水を示す電飾地図があります。ナイル川というのはロータスの形にちょっと似ていますよね。萼の部分から2つに分けて、上流の方を「上エジプト」、つまりこれという花の茎にあたる所を「上エジプト」、そして萼から上、つまり下流のデルタ地帯を「下エジプト」と呼びます。エジプトでは「上下エジプト」の両方を統一できた王様がこの国のファラオになれたわけです。

またエジプトの王様は二重冠をかぶっておりました。冠の前についているコブラは力の象徴、かま首をあげたコブラですね。コブラは王様のシンボルでした。もう一つハゲワシもあります、ハゲワシは溪谷地域にいますので上エジプトのシンボルとなり、そして沼地にいるコブラは下エジプトのシンボルとして守護神になりました。どの冠にもついてるコブラは王様の力強さを表しています。冠には赤と白の部分がありますが、白い所は上流の上エジプトの白冠、赤い所はデルタ地帯の下エジプトの冠です。この二重冠をかぶって王様は玉座につきました。彫像に出てくると片方ずつをかぶる時もあります。スフィンクスやツタンカーメンの黄金のマスクはネメス頭巾といいまして、やはり前にはコブラがついています。



エジプトの気候というのは、すごく暑い国、砂漠だと思われると思います。私は毎年エジプトに行っておりますが、エジプトは冬の時期つまり11月から2月が最も過ごしやすい旅行シーズンです。一番の観光地ルクソールは、日本でいいますとおよそ奄美大島位の所にあります。北の方のアレキサンドリアつまり地中海地方ではすごく寒くなりますし、南の方に行きますと一日の寒暖の差が50度位もあります。日中は40度以上もある暑い所ですが日本のように湿気がありません。そのおかげでちょっと日陰に入ったり、帽子をかぶったりするとさほど耐えられないほどではありません。寒いというイメージがないものですから、うっかりすると羽毛服が必要な位寒い時もありびっくりします。旅行に行かれる方はそういう所も研究して行っていただきたいですね。

上下エジプトは気候も人種も違っておりますので2つの国と考えて王様は支配しました。私はよく子供のワークショップをやりますが、古代エジプトの王様も黒い髪でしたので日本人の皆さんに王冠をかぶせるとよく似合います。

「エジプトはナイルの賜物」とヘロドトスがいいましたが、いろいろな穀物やぶどう、きゅうり、スイカとか我々が知っている野菜、果物そういうものはほとんどエジプトでとれています。人々はナイル川によって恩恵を受けていたんですね。エジプトは日本のように4つの季節はありません。種蒔きの前にはアフリカの方から流れてくるナイル川の増水季があり、3ヶ月かかって1番多い時で10mくらいまで水が増えます。その後3ヶ月かけて水が引いていきます。そうするとその下に、運ばれた肥沃な土、黒い土が見えてきます。そこに種をまく。種をまいておくとも何もしなくても、エジプトの農民は遊んで暮らしても自然と収穫ができるようになっていました。

増水を測るためのナイロメーターという川の岸に目盛りをつけたものがあった、それによって来年の収穫高が分かりました。エジプトはまだ貨幣がありませんでしたから物々交換です。税もナイル川の水位で来年の年貢はこれくらいにしようということが決められました。

現在ではアスワン・ハイダムという大きなダムを作ったために増水はなくなりましたが、ダムを作ったことにより川の住血吸虫という貝につく虫から病気を発生したり、今までは土と一緒に流されていた塩分類が土にたまって塩害が起こって肥沃な土でなくなっています。

また、みなさんも知っているかもしれませんがダムを作った時にラムセス2世の像が4つあるアブシンベル神殿をはじめ多くの神殿が湖の下に沈んでしまうことになりました。ここに赤くありますのは、すでに沈んでしまった神殿です。アブシンベル神殿はユネスコをはじめ日本や他の国が救済した神殿のひとつで、ブロックに分けて高台に移築しました。他にもいくつかの神殿を移しましたが、ナセル湖の下にはいろいろな神殿が残っています。古代エジプトには、石の神殿がたくさんありました。このナセル湖の周辺は50度近くにもなる暑い所ですが、ここを船に乗って見るクルージングに参加すると本当にさわやかな風が吹いていて気持ち良いです。今、このナセル湖クルーズというのが旅行ではおすすめの所です。

永遠のための芸術

エジプトの人物の描き方には決まりがありまして、これがエジプトのものだと誰でも分かる描き方があります。顔は横顔、目は正面から、鼻は横向きで肩は正面から、そしておしりは横向きを描いています。肩とおしりの向きが違うのでとても人間にはできない格好なのですが、どうしてこういう描き方をするのかというと古代エジプト人は永遠を求めていたからです。写生ではなく、年齢もここにはありません。理想の姿なので一番良く見える所、肩は正面向きに描き肩幅は広いですね。それからおしりや足は横から見た格好。目は前から見た方が全体が見えるのでよく分かる。そういう描き方をしていました。

今回の目玉になりますセクメト女神像は、東京国立博物館からきたものなのですが、東京国立博物館には2体セクメト女神像がごございます。そのうちの1体、修復後初めて館外に出したのがこのセクメト女神像

です。3ヶ月間この高山にお貸し下さったわけです。このセクメトという名前ですが、古代エジプトでは「力」を表す「セケム」という言葉があります。古代エジプトでは言葉の語尾に、アルファベットのTの音をつけると女性形になります。つまりこのセクメトとは力の女性形を表しています。メスライオンの姿で、ツタンカーメンと同じような頭巾あるいは髪の毛をくくったようなそういうものを被っています。このメスライオンの姿は、後ろに写っておりますカルナック神殿といわれるルクソールにあります神殿の主神でありますアメン・ラー神の奥様になります。奥様ですけれども、エジプトハゲワシで表すムト女神のムトという言葉がありますが、これが本来の彼女の名前です。ムトというのは「優しいお母さん」という意味で、ムト女神の神様がすごく強い力になった時に、このメスライオンのセクメト女神に変身するわけです。女神様はムトという形で普通優しい女神でアメン神の後ろにいることが多いのですけれどもこのメスライオンの頭をした神様として描かれることも多く、ルクソール神殿やカルナック神殿などにたくさんのセクメト女神像が残っています。

私の挨拶文にありますラムセス3世像葬祭殿にも太陽円盤（日輪）をつけたセクメト像があります。ここにありますセクメト像も実は太陽円盤をつけていたであろうという穴があいておりまして丸い円盤がここにあったのだと思われます。また、セクメトはメンフィスの主神ブタハ神の妻でもありました。

つまり、セクメトというのは力の女性形、女神様の力がすごく強くなった時にセクメトになります。優しい猫の女神バステト神が隣の展示室にありますけれども、バステト神も優しい時はネコの女神ですが、それが癡猛になって怒りくるった時にはこのセクメト女神像のようにメスライオンの姿になります。今回の目玉となるものなので、是非ゆっくり見て下さい。

復活の儀式

ここでは、古代エジプト人の来世について語られています。古代エジプト人はみなさんも知っているようにたくさんのミイラを作りました。ミイラをなぜ作ったかという、古代エジプトの神様オシリスというのを聞いたことがあるでしょうか。古代エジプトの神話の中にオシリス神という王様がいました。向こうの方に天地創造を紹介していますが、太陽神から生まれたオシリス神、それから弟のセト神という神様、奥様になったイシス神、それから妹でセト神の奥様になったネフティス神という神様がいました。オシリス神はエジプトの国を治めたとても善い王様でしたが、セト神はそれをよく思いませんでした。それである時セト神はオシリス神をばらばらにしてナイル川に流してしまいました。イシス神はオシリス神の身体を探しあてましたが、ばらばらです。それをアヌビス神というヤマイヌの神様に頼んで包帯を使って人間の形にしてみました。このキャラクターのように、ミイラにしました。身体は全部探すことができましたが、男性の生殖器だけはナイル川の魚に食べられてしまって見つかりませんでした。けれども妻のイシス神という女神様は魔法が使えたんですね。魔法の力を使って子供のホルス神を生みました。その後、ホルス神が次のオシリ



ス神の王位を継ぐことになったのですが、セト神も王位を継ぎたかったのでセト神とホルス神が戦うという神話があります。ミイラのもとになったのは、オシリス神でした。イシス女神のおかげで復活できたオシリス神は現世にあきあきしてしまったので、来世に行こうということで来世の王様になりました。その後、オシリス神は来世で幸せに暮らしたのでエジプトの人たちはオシリス神と同じように来世で復活できるようにミイラを作りました。ミイラはこの世で生き返ったのではなく幸せな来世に生き返ったわけです。

この前にありますのは、ミイラ型をしたシャブティです。これは墓の中にたくさん埋められたんですけども、それは来世で仕事を頼まれた時自分の代わりに仕事をさせるために入れられました。ミイラと同じ姿をしていて、例えば神様が「農耕をせよ」とかあるいは「ナイル川の運河に砂がたまっているのをそれを掘り起こせ」と頼んだ時に、代わりになってウシャブティが来世でお手伝いをしてくれるわけです。

護符や神様の像がありますが、これはミイラの間に巻き込んだり側に置かれたりしたものです。先ほどパピルスという紙がありましたね。パピルスには来世に行ったときに幸せな生活が送られるようにいろいろな呪文が描かれました。そしてこのパピルスの巻き物をミイラの側に置きました。

それから、ミイラの側にはここにあるようないろいろなお守りを置きました。特に有名なのは「アンク」という生命のシンボルや「ウジャツの眼」です。ウジャツの眼というのは先程イシス女神とオシリス神の子供、次の王となったホルス神の眼です。エジプトの王様はみんなホルスなんですね。ホルス神というのはハヤブサの神様。そのハヤブサの眼です。ハヤブサの眼は2つありますが1つは「太陽の眼」、1つは「月の眼」といいます。月は満ち欠けをしますよね。これはセト神、先ほど話をしましたオシリス神をばらばらにしてしまった神様。でもここではセト神を悪者といっていますけれどもその神話というのはずっと後に作られていて、もともとセトは「セティー一世」という王様がいますけれども、その守護神ですからセト神もいい神様であった時もあります。セト神と戦った時にホルスは眼をやられてしまうんですね。そして月のように満ち欠けをします。つまり丸くなった時は健康な眼なんですけど、三日月の時は病気の眼でした。そういう形でホルス神は月と太陽の眼を持っていました。また、お守りになりましたジェド柱というのは、オシリスの背骨とかあるいは穀物の束と考えられています。

さてここにありますのは「死者の書」の場面です。後ろをみると「死者の書パズル」があります。これは冥界の死者の魂を測るための「死者の裁判」の場面になります。死者の書というとなんとなく本のような気がしますが、巻き物の一部分で呪文が描いてあるものです。エジプト人は死ぬと、死者の書にあるようにアヌビス神が秤の前に連れてきて、その秤で自分の心臓と正義の羽根であるマアトの羽根を天秤にかけて秤ります。つりあっていればこの人の生前の行いは正しいということになりました。秤がつりあうことが大切だったんですね。そして、上の方には42の神様が描かれております。これは先程上エジプトと下エジプトといっていましたけれども、ノモスといまして（日本でいう県）上流は22、下流は20のノモスに分かれていました。その全部を足すと42になります。この42の神様が陪審員になっていますが、死者つまり死んでここに連れてきた死者はここで「42の告白」をいいます。例えば、私は生前悪いことをしませんでした。うそをつきませんでした。そういった何気ない小さなことまで含めて42の否定告白をしました。

そして、オシリスから「マアケルウ（声正しき者）」という称号を与えられます。今ですと故〇〇という意味ですが、オシリスの世界に入ることが保証されました。オシリスの世界というのはイアルの野といって生きていた時のエジプトと同じように農業ができ、肥沃な大地でした。もう死ぬことはなくずっと暮らすことができました。

また、人々や死者の名前の上には必ずオシリスがつきました。例えば、オシリス・アメンヘテブとかオシリス・ラムセスとか、あるいは一般の人でもオシリス・ネフェルウのようにつきました。これは、オシリスの国に入ること、私たちの感覚からすれば仏になるということです。仏になってもみんなはブッダにはなりませんよね。それと同じようにたくさんのオシリスができました。けれども大神オシリスというのは、エジプトの王、初めてリーダーになったオシリス神なんです。エジプトの人々は、死んだらそのオシリスの国に入れてもらうことと太陽神とともに旅をすることを望んでいました。

エジプトは農業国ですので太陽が大切です。太陽は朝昇りますが夜は沈みます。その次の日にはまた復活してきます。オシリス神も復活しましたが太陽神も毎日新しく復活するわけです。そしてナイル川。ナイル川も増水があって水がひいて、そして種を植え収穫ができます。また次の年には増水して水がひいてというように、古代エジプト人はそのような復活のものをたくさん見ていたので復活して来世に生きるという来世思想が王様や一般の人たちに広まっていきました。

人は死ぬとどうなるの

エジプト人の特徴あるものの一つとして、ここに人は死ぬとどうなるの？とありますが、人の成り立ちの概念があります。ギリシアやいろいろな所では死ぬと遺体つまり死んだ肉体と魂に分かれると考えられています。古代エジプトでは肉体はもちろんミイラにしているので動きませんが、魂は鳥の羽根を持って自由に動き回る。ここに顔が描いてありますけれども、ミイラの顔にはマスクをのせますよね。鳥の姿をして飛んでいる姿を「バー」と呼びますが、バーは人間の活動的な部分を表しています。バーは自分の顔がミイラについていれば夜になると又ミイラの所へ戻ってくるわけです。

もう一つ、人間は死んでからも食物を食べないと来世で生きていけないと考えていましたので、いろいろなお供え物が墓に供えられました。もちろん神様も食べる物がなくてははいけません。そのお供え物を「カー」という、ここでは両手が頭の上に挙がっているのがカーといいます。カーはお墓の前にある偽扉、実際は開かないのですが、こういう所を通してその前にあるお供え物を食べにくと考えられていました。カーはその人の生命力、バーはその人の動ける部分と古代エジプトの人はいろいろなことを考えたのですね。

また、エジプト人は後ろにある影を見ました。なんだか自分が動くときも影も一緒になって動く。そういうことなので「影」も人間を形作る1つの要素と考えました。ここにあります太陽も丸い影を持っています。

そしてここに「名前」とありますね。古代エジプトにおいては名前は何よりも大切なものでした。名前を消すとその人の存在もなくなすことができると考えられていました。そこで自分の憎らしい王様とか嫌いな人の名前があると名前を抹殺してしまいます。古代エジプトも現在のエジプト人も同じ名前は多いのでそれほど大切だったのかなと思いますけれども、古代エジプト人にとっては一番大切だったようです。この「カー」と「バー」、「肉体」と「影」と「名前」はある1人の個人に備わっているものと考えていました。これがエジプト人の特徴的な考え方です。

来世の豊かな生活のために

エジプトの来世というのは、現世での全くの写しでした。つまり、普通だとこの世が嫌になったので死んでしまったら楽になるのかなあとか考えることもありますが、古代エジプト人は死んでもやはり生きていた時と同じ生活をしたと思っていたようです。農作物があり、ナツメヤシが茂っているナイル川のほとりでいろいろな神様、日本と同じような八百万の神様を祭りながら、自分は来世でもずっとオシリスになって同じように生きたいと考えたのが古代エジプト人でした。ですからお墓の中に埋められた副葬品はすべて来世のためのもので、すばらしい金銀細工が入っていても自分の富を来世に持っていこうとしたのではなく来世で必要とされたものをお墓の中に入れたのです。

現在のエジプト

展覧会で非常に珍しい企画として、この現在のエジプトというのを組み込みました。普通の展覧会ですと古代エジプト、クレオパトラの所で終わってしまうんですね。ミイラ展とかでもそうなんですが、このエジプト展の特徴は現在のエジプト、つまり現在はイスラム教になった時代までも紹介しています。

こちらは、イスラム教の聖典クルアーン、それからコプト。コプトというのは土着のキリスト教徒で今もいます。全体の90%がイスラム教徒で残り10%がコプト教徒です。このエジプトのイスラム教徒の聖典は私がモスクという教会からいただいたものです。聖典クルアーンはアラビア語で書かれています。現在のエジプトは公用語がアラビア語です。ギリシア語から変わってアラビア語になりました。コプト語というのは先程シャンボリオンがロゼッタ・ストーンからヒエログリフを解読したきっかけとなった言葉です。そのコプト語というのは土着のキリスト教の聖典にしか残っていません。この聖典の外側はアラビア語で書いてありますが、中はアラビア語とコプト語の対訳になっておりまして大変珍しい聖典です。

その他には、現在のエジプトを紹介するようなモスクランプやシーシャがあります。シーシャは水タバコといって普通は男性が吸います。女の人も吸っていることもありますが、普通のタバコよりも体にいいといわれています。

それから礼拝用の絨毯があります。サウジアラビアのモスクの方つまりイスラム教のメッカに向かって礼拝をするための絨毯です。

現在のエジプト人は古代からそうだったのですが、とても音楽が好きで明るい人々です。エジプトに行きますとあちらに並べてあります楽器を使って、旅行者たちを音楽で迎えてくれます。パピルスも売っております。偽物はバナナの皮で作ったりもするのですが、このパピルスが一番持って帰りやすいお土産となっています。こちらにはガラス細工、化粧道具、昔使われていたようなガラス細工もあります。ガラスは古代エジプト時代に、トトメス3世が遠征で持ってきたのが始まりでした。それまではガラスはありませんでした。

まとめ

古代エジプトから現在のイスラムに至るまでこの小さな空間ですけれどもこの中で是非学んでいって下さい。展示されている発掘品と共にグラフィックも読んでエジプトのことに是非強くなって、本を1冊読んだ気持ちで楽しんでいただければと思います。

長い間お付き合いいただきありがとうございました。



出張美術館 5 年間の実施報告
～小・中学校に対するアウトリーチ活動～

大石裕子
光記念館学芸員

はじめに

平成14年より「総合的な学習」の時間が導入され、学校教育もますます多様化して来た。特に近年では小・中学校に対する心の教育に関して、博物館・美術館への期待はより高まったといえる。当館としても飛騨地域が抱える交通ハンデを解消し、多くの人々に鑑賞して頂けるような先進的な展示・教育普及手法を模索してきた。子供達が心豊かにこれからの社会の中で生きていく為に、日本の優れた作品に触れる事はきわめて有効である。そういった点からも学校における総合学習の支援として、平成15年から5年間に渡り、当館の美術品を持ち込んだ出張美術館を行って来た。その活動について、実施報告を踏まえながら5年間の歩みを紹介する。

5 年間の実施校

年号	実施校	学年	人数
H15	西小学校	5・6年生	95名
	南小学校	6年生	90名
	新宮小学校	5・6年生	126名
	山王小学校	6年生	80名
	江名子小学校	6年生	54名
	荘川小学校	全校児童	64名
	中山中学校	3年生	184名
	松倉中学校	3年生 (一部の1・2年生も含む)	227名
	荘川中学校	1・2年生	31名
H16	西小学校	5・6年生	92名
	南小学校	6年生	81名
	新宮小学校	6年生	61名
	山王小学校	6年生	103名
	江名子小学校	6年生	31名
	岩滝小学校	全校児童	50名
	宮小学校	3年生	184名
	久々野小学校	6年生	32名
	荘川小学校	全校児童	61名
	中山中学校	3年生	167名
	松倉中学校	3年生	175名
	荘川中学校	全校生徒	30名
H17	南小学校	6年生	87名
	北小学校	6年生	112名
	北小学校	3年生	110名
	新宮小学校	6年生	64名
	江名子小学校	6年生	52名
	国府小学校	6年生	80名
	小坂小学校	6年生	26名
	中山中学校	3年生	157名
	松倉中学校	3年生	147名

H18	西小学校	6年生	42名
	南小学校	6年生	89名
	北小学校	5年生	128名
	北小学校	6年生	134名
	江名子小学校	6年生	51名
	国府小学校	6年生	77名
	小坂小学校	6年生	25名
	丹生川小学校	6年生	39名
	清見小学校	6年生	35名
	中山中学校	3年生	174名
	松倉中学校	3年生	160名
	東山中学校	3年生	158名
H19	丹生川中学校	3年生	49名
	東小学校	6年生	103名
	西小学校	6年生	45名
	南小学校	6年生	85名
	北小学校	6年生	128名
	新宮小学校	6年生	77名
	山王小学校	6年生	111名
	江名子小学校	6年生	49名
	宮小学校	6年生	21名
	久々野小学校	6年生	41名
	国府小学校	6年生	91名
	小坂小学校	6年生	16名
	丹生川小学校	6年生	35名
	三枝小学校	6年生	39名
	花里小学校	6年生	60名
	中山中学校	3年生	154名
	松倉中学校	3年生	160名
	東山中学校	3年生	143名
	丹生川中学校	3年生	48名

※授業を受けた児童・生徒のみ（教員・保護者のぞく）

小学校へ持ち込む作品としては教科書に掲載されている浮世絵版画を選抜した。初年度は葛飾北斎の「富嶽三十六景」を主に持ち込んだが、社会の教科書に歌川広重の「東海道五十三次」が掲載されていることから、2年目以降「東海道五十三次」を採用した。中学校へは額入りの肉筆浮世絵を選抜し持参した。しかし開催から2年間は小学校と同じく浮世絵版画を持ち込み、小学校より高度な内容を盛り込んだ授業を行った。いずれにしても作品の保護を考え、小学校では「東海道五十三次」全55枚をH16年から6年計画で振り分け、中学校へは当館で約420点所蔵している肉筆浮世絵の中から、順に数点を持ち出す事とした。

また、H16年から教員の要望により、一部の学校で現代アートを持ち込んだ授業を行った。始め小学校6年生を対象に行ったが、子供らしい柔軟な発想と感性を育てる事を目的とし、次年度より小学校3・4年生も視野に入れた新しいプログラムとして追加した。

5 年間の作品一覧

年号	使用場所	資 料 名	種類	作者
H15	小・中学校	富嶽三十六景（凱風快晴）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（神奈川沖浪裏）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（山下白雨）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（深川万年橋下）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（東都駿台）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（青山円座松）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（武州千住）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（武州玉川）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（甲州犬目峠）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（尾州不二見原）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（東都浅草本願寺）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（武陽佃島）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（相州七里浜）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（相州梅沢左）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（甲州石班沢）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（甲州三島越）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（信州諏訪湖）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（駿州江尻）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（遠江山中）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（常州牛堀）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（江都駿河町三井見世略）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（御廬川岸より両国橋夕陽見）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（五百らかん寺さざゐどう）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（礪川雪ノ旦）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（下目黒）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（隠田の水車）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（相州江の島）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（東海道江尻田子の浦略図）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（東海道吉田）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（上総ノ海路）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（江戸日本橋）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（隅田川関屋の里）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（登戸浦）	木版画	葛飾北斎

年号	使用場所	資 料 名	種類	作者
H15		富嶽三十六景（相州箱根湖水）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（甲州三坂水面）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（東海道程ヶ谷))	木版画	葛飾北斎
		東海道五十三次（関）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（島田）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（日本橋）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（戸塚）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（箱根）	木版画	歌川広重
H16	小・中学校	東海道五十三次（川崎）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（保土ヶ谷）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（平塚）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（大磯）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（三島）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（沼津）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（蒲原）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（江尻）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（岡部）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（白須賀）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（御油）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（藤川）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（庄野）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（亀山）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（大津）	木版画	歌川広重
		富嶽三十六景（本所立川）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（従千住花街眺望ノ不二）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（相州仲原）	木版画	葛飾北斎
		富嶽三十六景（諸人登山）	木版画	葛飾北斎
		CARD BIRD I	ダンプール	R.ラウシェンバーク
		CARD BIRD II	ダンプール	R.ラウシェンバーク
		戸口へ急ぐ貴婦人たち	銅版画	池田満寿夫
		麒麟	トローイング	池田満寿夫
		浦島	ブロンズ	池田満寿夫
		万葉人	ブロンズ	池田満寿夫
		アペ・ブランカ	オブジェ	アウレリア・ムニョス
		リプロ・シクサック	オブジェ	アウレリア・ムニョス
H17	小学校	東海道五十三次（品川）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（府中）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（吉原）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（由井）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（浜松）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（荒井）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（宮）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（日坂）	木版画	歌川広重
		炎の祭り	石版画	池田満寿夫
		麒麟	トローイング	池田満寿夫

年号	使用場所	資 料 名	種類	作者
H17		緑陽	ブロンズ	池田満寿夫
		リプロ・シクサック	オブジェ	アウレリア・ムニョス
		アペ・ブランカ	オブジェ	アウレリア・ムニョス
		甲山	コラージュ	須田剋太
	中学校	紐を結ぶ女	肉筆浮世絵	祇園井特
		雪見美人	肉筆浮世絵	水野虜朝
		旅の女	肉筆浮世絵	藤麿
		円窓の三美人	肉筆浮世絵	鳥園斎栄深・島君山
		凍る朝の母と娘	肉筆浮世絵	歌川国宗
		本を読む女	肉筆浮世絵	歌川国英
		二見ヶ浦	肉筆浮世絵	歌川国継
		勸進帳	肉筆浮世絵	歌川広重
H18	小学校	東海道五十三次（神奈川）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（袋井）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（見附）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（舞坂）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（岡崎）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（池鯉鮒）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（石部）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（草津）	木版画	歌川広重
		戸口へ急ぐ貴婦人たち	銅版画	池田満寿夫
		動物の祭り	石版画	池田満寿夫
		麒麟	トローイング	池田満寿夫
		甲山	コラージュ	須田剋太
		NO.209	抽象画	須田剋太
		NO.201	抽象画	須田剋太
	中学校	髪をすく女	肉筆浮世絵	東川堂里風
		立ち美人	肉筆浮世絵	作者不詳
		ほととぎすと遊女	肉筆浮世絵	駿斎連馬
H19	小学校	東海道五十三次（日本橋）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（戸塚）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（藤沢）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（小田原）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（箱根）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（二川）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（赤坂）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（水口）	木版画	歌川広重
		戸口へ急ぐ貴婦人たち	銅版画	池田満寿夫
		動物の祭り	石版画	池田満寿夫
		バイオリン	石版画	池田満寿夫
		麒麟	トローイング	池田満寿夫
	中学校	掛軸を見る三美人	肉筆浮世絵	作者不詳
		立ち美人	肉筆浮世絵	作者不詳
		三美人と犬	肉筆浮世絵	雪屋主人

年号	使用場所	資 料 名	種類	作者
H19		三世尾上菊五郎のいがみの権太	肉筆浮世絵	作者不詳
		遊女	肉筆浮世絵	礪川亭一指
		長煙管を持つ遊女	肉筆浮世絵	奥村政信
		枕持つ女	肉筆浮世絵	月岡雪鼎
		傘さし美人	肉筆浮世絵	歌川国久
		人形を遣う娘	肉筆浮世絵	作者不詳
		雪中傘さし美人	肉筆浮世絵	二代 鳥居清満
H20	小学校	東海道五十三次（興津）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（掛川）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（鳴海）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（桑名）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（四日市）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（石薬師）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（阪之下）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（京師）	木版画	歌川広重
	中学校	未定		未定
H21	小学校	東海道五十三次（原）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（鞠子）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（藤枝）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（島田）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（金谷）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（吉田）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（関）	木版画	歌川広重
		東海道五十三次（土山）	木版画	歌川広重
	中学校	未定		未定

作品には照度管理の難を解消するため高性能なUVカットガラスもしくはフィルムを採用し、データロガによる温湿度管理も随時行なった。学校側のニーズと作品の保護を考え、開催時期を毎年秋に設定し、暗幕がある特別室を利用する事にした。



照度計とデータロガ

授業形態

学授業の内容は学校によって若干違いはあるものの、形態に関してはほぼ同様にした。

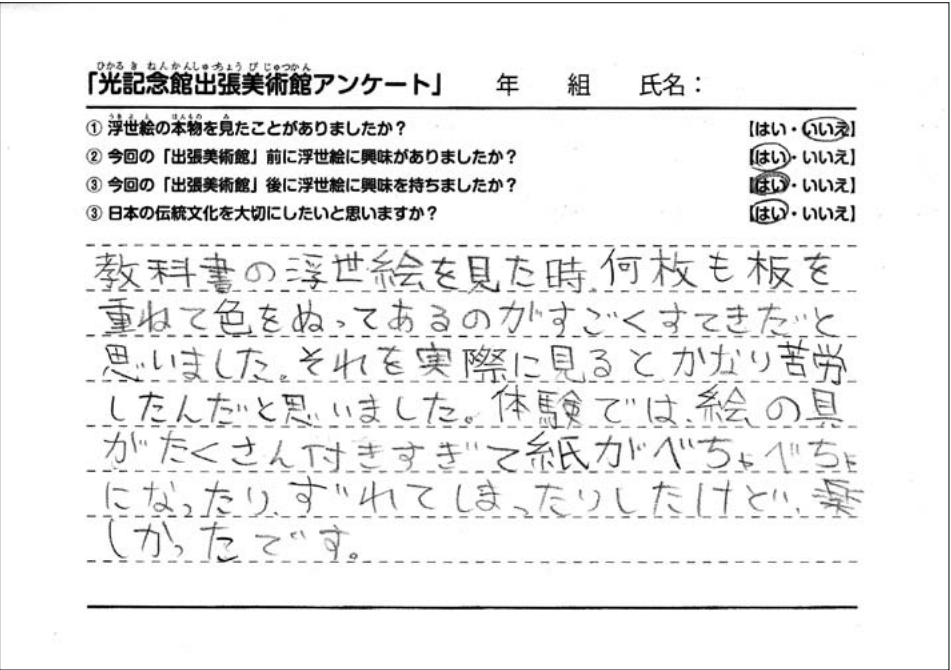
【小学校45分授業の場合】

ごあいさつ（2分）→説明（12分）→移動（1分）→説明（12分）→移動（1分）→説明（12分）→ごあいさつ・感想・質問など（4分）
※下線は3グループに分かれて説明

【中学校50分授業の場合】

ごあいさつ（3分）→説明（13分）→移動（1分）→説明（13分）→移動（1分）→説明（13分）→ごあいさつ・感想・質問など（5分）
※下線は3グループに分かれて説明

授業時間は学校側の負担を考え、小学校は45分、中学校は50分と通常と同様に設定し、1クラスずつ授業を行うようにした。そうする事でより利用率が上がり、多くの子供達に作品を見せる事が出来た。あらかじめ特別室内の3ヶ所に机を配置し、その2ヶ所で作品の展示を行い、1ヶ所で体験学習を行った。授業中は1クラスを3グループに分け、時間内に3ヶ所をローテーションする手法をとった。この手法により子供が集中力を持続しつつ、より近くで作品を観賞することができるというメリットが生まれた。学芸員としてもコミュニケーションが取り易く、反応を見ながら子供の視点に立った授業に心掛けることができた。実際のアンケート結果から、楽しく分かり易い授業を展開する事が出来たといえる。しかし1校につき3～4名の人手が掛かり、短時間で3ヶ所をローテーションする為、若干慌ただしく感じる点を今後の課題としている。



H19教員アンケート結果（23名）

Q. 今回の「出張美術館」はいかがでしたでしょうか？
①大変良い 18人 78%

②良い	5人	22%
③普通	0人	0%
④良くない	0人	0%
⑤大変良くない	0人	0%
無回答		

Q. 解説はいかがでしたでしょうか？

①大変分かりやすい	12人	52%
②分かりやすい	8人	35%
③普通	0人	0%
④分かりにくい	0人	0%
⑤大変分かりにくい	0人	0%
どちらでもない	13人	13%
無回答		

Q. 時間について

①長すぎる	0人	0%
②ちょうど良い	20人	87%
③短すぎる	0人	0%
どちらでもない	3人	13%
無回答		

Q. 開催時期について

①ちょうど良い	21人	91%
②良くない	0人	0%
どちらでもない	2人	9%
無回答		

Q. ご紹介時期について

①ちょうど良い	21人	91%
②良くない	0人	0%
どちらでもない	2人	9%
無回答		

Q. 今後も「出張美術館」を利用したいと思いますか

①利用したい	23人	100%
②利用したくない	0人	0%
無回答		

「利用したい」と答えた方の理由（抜粋）

本物を見る事で、子供達の興味が変わってくるため。

Q. どのような授業で利用したいと思いますか（抜粋）

<小学校>

社会（江戸の文化）、総合、図工など

<中学校>

美術の鑑賞、英語

Q. どのような美術品を利用したいと思いますか（抜粋）

<小学校>

社会（江戸の文化）、総合、図工など

<中学校>

美術の鑑賞、英語

Q. どのような美術品を利用したいと思いますか（抜粋）

<小学校>

絵画、歴史的に価値の有るもの、日本の画家を知れるもの

<中学校>

浮世絵、日本画、水墨画、世界に通じる日本の作品、郷土の作家、彫刻、デザイン

Q. どのような学習効果を期待されますか（抜粋）

<小学校>

- ・ 自国に誇りが持てる
- ・ 美術品への興味が高まる
- ・ 美しいものを見て豊かな情操を養う
- ・ 歴史で学習した教科書にあるものが、目の前で本物として見る事が出来る感動
- ・ 描かれた景色の時代背景を知り、歴史を学ぶ

<中学校>

- ・ すぐれた本物の作品の鑑賞により、興味、関心を持つ
- ・ より美術作品が身近に感じる
- ・ 実物が持つ制作の足跡から表現をした人の息遣いまで感じられ、実物のみが持つ感動を与える力を期待する
- ・ 美術を愛する心情、態度の育成

その他要望、感想（抜粋）

<小学校>

- ・ 体験コーナーがとても良かったです。簡単に美しい作品が作れ、持って帰る事が出来たので、子供達も喜んでいました。
- ・ 親切、丁寧な指導で子供達も楽しくよく分かる授業に大変満足そうでした。
- ・ 45分でとても内容のぎっしり詰まった授業で大人も夢中になっていました。時間の使い方の見事さに感動しました。

<中学校>

- ・ グループに分け、ひとつひとつの内容を子供が飽きないように工夫されており、内容も比較的分かり易かったと思う
- ・ 1時間の情報量としては多いのでもう少し絞れるとなお良いと思う
- ・ 事業としての出張美術館の内容に美術科の鑑賞学習を重ね、教育効果を求めて行く試みを今回初めてさせて頂き、学びがいのある時間を過ごせました。

- ・純粋に鑑賞だけでなく絵にまつわるエピソードなど
- ・顔料や膠などを直に見る事ができて大変興味深く進めて下さいました
- ・先生方の立ち位置をもう少し工夫して下さいと生徒がしっかり見る事が出来ると思います

体験学習

授業を行う中で1番重要なのは本物を見る事に有るが、さらに子供達に興味を持たせ、理解させ、楽しい思い出にするには学芸員の話術と授業の進め方がポイントになるであろう。当事業ではこの5年間において体験学習を交えた授業を行って来た。体験を加える事は子供達の理解を促すだけでなく、楽しく学ぶ上で重要である。小学校に浮世絵版画を持ち込んだ場合3色摺りを体験させ、現代アートを持ち込んだ場合、デカルコマニー・コラージュ等を行った。初年度の摺り体験は葛飾北斎「富嶽三十六景」の「凱風快晴」を3版に分けたハガキサイズだったが、次年度以降は「神奈川沖浪裏」を3版に分け、原画に近いサイズで行なった。全員が体験出来るよう1人が1色を担当し、そのグループで作品を作らせ、それぞれの個性が出るようにした。毎回授業の終わりにグループの代表者がそれらの版画を持って前へ並び、当時の技術の高さを再認識した。ただし作品の優劣ではなく個性の豊かさを賞し、美術館での絵の見方など簡単な内容も付け加えた。中学校では教員の要望によりH18年から体験学習を導入した。江戸時代からある「紋切型」や、日本画に使われている画材を持参した。学校では画材に触れる機会が少なく、日本の伝統・技術を肌で感じる事で、文化に対する意識も高揚する。また卒業学年という事もあり、進路指導を踏まえ学芸員について学べる内容も授業に追加した。

授業内容

小・中学校の内容が大幅に異なり多岐に渡るが、学校長に紹介する概要は下記の通りである。
また、それぞれ別に報告書の事例を以って紹介する。

授業のご案内		光記念館 出張美術館	
授業の形態についてお願い ・江戸時代に作られた本物の作品をじっくりと鑑賞して頂く為、要所場所にテーブルを9ヶ所配置させて頂きます ・児童・生徒を3グループに分け、各グループごとにテーブルを回って各所で説明を交けたり体験学習を行なって頂きます(内容・時間・人数など打合せにより変更可能)	現代アート 様々な作品からアートを見る感性を養い、簡単な制作の技法を学ぶ。 (主な作家…池田満寿夫、須田短太、アヴレリア・ムニョス、ロバート・ラウシェンバークなど)		
浮世絵（版画・肉筆） ＜小学校の解説＞ ・日本が海外に与えた影響(ジャポニズム)の大きさと内容について学ぶ ・江戸時代の社会やくらしについて本物から学ぶ ・歌川広重についてや当時の版画について観賞する	体験学習 ＜浮世絵関係の体験学習＞ 三色刷り版画体験・刷版体験 神奈川沖浪裏などの作品をグループごとに作成する 文きり遊び…寺子屋の教科書に書かれていた遊びを使って、日本の伝統的な文様を作成する		
＜中学校の解説＞ ・学芸員の仕事について学ぶ ・江戸時代(浮世)の生活・文化について学ぶ ・江戸の浮世絵・肉筆の鑑賞を通して学ぶ ・日本画の材料や装束の構造について学ぶ	現代アート関係の体験学習 道作体験…広告、冊子、素材などを使ってインスタレーション作品をつくる クラフト…色紙、糊、様々な素材を使って作品を作る 二色刷り版画体験…刷版の製作を通して、色紙に刷り、糊で貼り、糊で貼った作品を二色刷りを使って作品をつくる 手拍子を使った作品づくり…アートを観るだけでなく、リズムを手拍子にしてグループの音楽をつくる		

説明資料

新宮小学校(I)

1、日 時：平成15年12月11日 3限・4限
2、場 所：新宮小学校 図工教室
3、対象者：5年1組・2組（合計66名）

1、内容

- 絵画鑑賞：（浮世絵版画）葛飾北斎「富嶽三十六景」
- 多色版画摺り体験：葛飾北斎「富嶽三十六景」の中の「凱風快晴」（「凱風快晴」を模して当館で作成したはがきサイズの3色刷り版画）を、実際に刷ってもらった。

2、手法

- 図工教室内の2ヶ所のテーブルにそれぞれ5～6点ずつ浮世絵版画（額入り）を配置。一つのテーブルに多色版画刷りセットを設置。1クラスを3グループに分け、子供たちはグループ毎にテーブルを回って各所で10分ずつ説明を受けたり版画を刷ったりした。

3、児童・生徒に対するアンケート結果

- Q1：北斎や広重の名前を知っていましたか？
YES 10%（6/58人）
NO 90%（52/58人）
- Q2：富嶽三十六景や東海道五十三次の本物を見たことがありますか？
YES 19%（11/58人）
NO 81%（47/58人）
- Q3：浮世絵に興味がありますか？
YES 52%（30/58人）
NO 48%（28/58人）

4、教員に対するアンケート結果

- 短時間であったため、やや早口であったと思う。来年もやって欲しい。
- 今後も利用したい
- 図工の鑑賞には芸術性も高くとても良い。
- 立体的な作品もあれば有り難い。



国府小学校

1、日 時：平成17年11月25日 2・3時限
2、場 所：国府小学校 ミーティングルーム
3、対象者：6年生 合計80名

1、内容

- 絵画鑑賞：浮世絵版画 歌川広重「東海道五十三次」の8点
- 多色刷り版画摺り体験：葛飾北斎「富嶽三十六景」の中の「神奈川沖浪裏」を模して当館で作成したB4サイズの3色刷り版画を使用した。

2、手法

- マルチルームの2ヶ所のテーブルに合計8枚の浮世絵版画（額入り）を配置し、もう1ヶ所のテーブルに多色刷り版画セットを設置した。児童を3グループに分け、子供たちにはグループ毎にテーブルを回って、各所で11分ずつ作品や絵師についての説明を受けたり、版画の摺り体験をした。

3、児童に対するアンケート結果

- Q1：歌川広重や葛飾北斎の名前を知っていましたか？
Yes-----91%
No-----9%
- Q2：世界的な名画「東海道五十三次」や「富嶽三十六景」の本物を見た事がありますか？
Yes-----0%
No-----100%
- Q3：“出張美術館”前に浮世絵に興味がありましたか？
Yes-----36%
No-----64%
- Q4：“出張美術館”後は浮世絵に興味を持ちましたか？
Yes-----99%
No-----1%
- Q5：日本の伝統文化を大切にしたいと思いますか？
Yes-----100%
No-----0%

4、教員に対するアンケート結果

- 浮世絵がヨーロッパに与えた影響を知るよい機会だと思う。
- 図工鑑賞の授業として来年も利用したい。
- 浮世絵の技法も知ることができ、今回のような実施方法で良い。

- 多色刷り版画の摺り体験は子どもたちにとって良い機会だと思う。



出張美術館 新聞掲載記事

岐阜新聞 平成17年10月18日



<中学校>

中山中学校

日 時：平成16年10月19日（1限・2限・3限）、20日（2・4時限）
場 所：中山中学校 マルチルーム
対象者：3年生全員（5クラス） 合計167名

1. 内容

○絵画鑑賞：（浮世絵版画）歌川広重「東海道五十三次」の15枚

○社会的説明ならば他の文献との関わりや時代背景に重点があっても良いが、美術で扱う場合は外国作品との関わりや、構図、色彩などポイントを絞ってやって頂けると良いと思う。

2. 手法

○マルチルームの3ヶ所のテーブルにそれぞれ5枚の浮世絵版画（額入り）を配置。1クラスを3グループに分け、生徒たちにはグループ毎にテーブルを周って、各所で9分づつ説明を行った。
○マルチルーム後方のテーブルに池田満寿夫のブロンズ彫刻を2点、ハンドボール用のラックにロバート・ラウシェンバークのダンボールオブジェを2点展示。最後は全員に現代アートについて簡単な説明をさせて頂いた。

3. 生徒に対するアンケート結果

Q1 歌川広重や葛飾北斎の名前を知っていましたか？
Yes.....91 %
No.....9 %
Q2 世界的な名画「東海道五十三次」や「富嶽三十六景」の本物を見た事がありますか？
Yes.....7 %
No.....93 %
Q3 『出張美術館』前に浮世絵に興味がありましたか？
Yes.....18 %
No.....81 %
未回答.....1 %
Q4 『出張美術館』後は浮世絵に興味を持ちましたか？
Yes.....84 %
No.....14 %
どちらとも言えない.....2 %
未回答.....2 %
Q5 日本の伝統文化を大切にしたいと思いますか？
Yes.....97 %
No.....3 %

4. 教員に対するアンケート結果

○中学3年生のレベルには、やや解説が難しい感じを受けたので、レベルを下げて良かったと思った。



高山市で教員がより良い授業を研究して行く為に、広く一般に公開された「公開授業」が年1回行なわれている。以前は高山市教育委員会主催で行なわれていたが、現在は各学校の自主性に任されており、学校主催で実施される。実施の際は高山市教育長はじめ教育委員会、市内の各学校教諭、保護者など多くの方が見学

される。光記念館も出張美術館としてH18年から公開研究授業に協力して来た。H19に東山中学校で行われた「公開授業」について、博学連携の一例として紹介する。

公開授業 1

美術科学習指導案

授業者 谷口 榮 作
学 級 3 学 年 D 組
場 所 美術室（3階）

1、題材名

浮世絵はおもしろい（鑑賞）

2、題材について

鑑賞の学習である。社会人の中には自らは制作をしなくても、各地の美術館などを訪ねたり、地域の写真展や美術展に足を運ぶ人も多い。中学校での鑑賞学習は、生涯学習という視点からも大切な意味をもっているといえる。今回、光記念館の事業という機会をとらえて、日本美術、特に江戸時代の浮世絵について鑑賞指導を計画してみた。第3学年の鑑賞指導では、社会などの他教科で学んだ知識とともに美術を生活や社会、歴史などの関連で見つめながらより深く味わえるようにしたい。

浮世絵の鑑賞については、その時代背景や技能、庶民の生活との関わり、描かれ方としての当時の人々の美意識、紋様の意匠、版画の販売システム、西洋の美術への影響など多くの興味深い視点がある。前任者によると、3学年の生徒たちは、昨年度も浮世絵についての鑑賞学習をしている。その内容は、日本独自の文化である浮世絵の理解や浮世絵を通した日本のデザイン文化の理解や継承をねらいとしていたとのことである。本題材では、生徒の興味関心の要求をふまえ、浮世絵が誕生した時代背景や庶民の生活との関わり、描き方などについて考え学ぶとともに、西洋美術の発達に果たした役割を知らせることで雑学を通じて、より身近に感じて親しみをもってほしいと考えている。また、本物の肉筆画を鑑賞できる機会を生かして、その美しさを肌で感じて欲しいと願っている。

（浮世絵について）

浮世絵は、戦国時代の乱世から江戸時代への移り変わりとともに、生きているこの世の辛さ苦しさを表す「憂世」から安定した庶民の生活ができる世の中を楽しみ出した「浮世」へと変化する中で生まれてきた絵である。浮世絵は、版画と肉筆画とがあるが、版本と呼ばれる白黒で摺られた版画の本に挿絵として表された絵がだんだん独立して一枚の「墨摺絵」になってきたところから生まれたとも言われている。やがて美しい色のついた絵を求めながら、白黒の版画に筆で彩色した「紅絵」となり、見当の発明によって2・3色摺りの「紅摺絵」となり、明和（1765年頃）には「錦絵」と呼ばれる多色摺木版画となって発達した。浮世絵版画は、版元、絵師、彫り師、摺り師の4者からなる販売システムによって売り出される安価なプロマイドであり、ポスターであり、広告のようなものであった。大衆層を購買者とする大量生産型の作品であったため、1点が数文の安い価格で売られていたものと思われる。そのため輸出陶器の包み紙としてヨーロッパに到達し、ジャポニズムが起きるきっかけになった。また、肉筆画は、富裕層からの注文によって制作される1品もののプロマイドであった。主に掛け軸などにして身近な床の間に飾り、見て楽しんだものと思われる。

3、研究との関わり

(1) 学力状況調査などから実態把握をして授業改善を図る

この学級で浮世絵についての関心や興味を調査したところ、「興味がある」と答えたのは33人中11人だったのに対して、「ない」と答えたのは21人だった。ややがっかりするとともに、浮世絵が美術史に与えた影響を思うと、このまま義務教育を終えてもらうのは生涯教育の視点からも好ましいことではないと感じた。その理由の内訳は、（面白くない9、絵が好きではない4、難しそう2）というものだったが、他に（きれいなだけ、よくわからない）というものもあった。主体的な鑑賞のための土台となる造形的な経験およびその視点をもつことの弱さとともに、日常的にある美術への素直な接し方のぎこちなさもあるのではないかと反省している。

－ 美 1 －

また、浮世絵について知っていることは、「江戸時代につくられた」との答が最も多く、この設問への回答者25名中13名だった。他の答は、「ヨーロッパへの影響」1名、「ポスターの代わり」1名、「歌舞伎役者を描いた」2名だった。選択式の設問だったら、もっと既習事項への答が期待できたかもしれない。	
鑑賞学習についての学力状況調査に代わる美術科の実態把握として必要なのは、どんな造形の視点を持ち、どんな用語をつかうことができるかを調査することかもしれないが、私にとっては難しく、できなかった。	
これらの調査結果から、昨年度2年次の鑑賞指導2単位時間に加えて今年度2単位時間の指導計画を立てた。	
内容は、生徒にもっと日本の浮世絵を身近なものに感じてもらうことと、ジャポニズムについての理解を深めることが必要だと考えた。	
しかし、造形用語云々の頭で考える理屈理論ではなく、鑑賞の命は生徒の心が動くほどの資料にあると思っている。幸いなことに光美術館の「出張美術館」事業により、生徒が本物の肉筆画を教室にしながら鑑賞できる機会を得たことは、何にも増してありがたいことである。	
(2) 学び合いや練り合いのある授業展開の工夫	
○「学び合い」のためにはこの鑑賞学習の土台があることが必要である。	
既習事項を思い出すことができるように、昨年度の学習内容について、教室内へ掲示して思い出せるようにする。	
「縄文時代から江戸時代に至るまでの日本の美術の変遷」	
・「浮世絵」の意味	
・肉筆画と版画	
・浮世絵に描かれている着物の文様＝人々が育んできた美	
○「練り合い」のためには、考える視点を共通のものとするために生徒たちに共通の「比較する視点」が必要である。	
共通する視点があり、追求する方向がつかめるように、本時では課題解決のための鑑賞の視点を示すことにした。	
鑑賞の基礎	
・造形要素を知っている	
・心を開いて作品の前に立つことができる	
・時代背景を理解している	
・作者の生き方を推し量ることができる	
なお、学問的分析的な鑑賞もあれば、「何となく好きだ」とか「見ていて気が休まる」という情動的な鑑賞もある。私はどちらかというと後者の方が今の時代の人間にとって必要な鑑賞だと思うが、「学習」としての鑑賞はそれではいけないのだろうかと、愚問することもある。	
－ 美 2 －	

4、指導計画			
く3年次の鑑賞学習			
「日本の美術とのであい 2」			
時間	ねらい	学習活動	評価規準
1 本時	浮世絵は庶民の流行を担う文化だったことを理解し、浮世絵にいっそう興味をもつことができる。	○内筆画10点を鑑賞し、表現から、絵師達が「着る」ことの流行を創っていったことに気づく。 ・着物の文様 ・着方（帯の形、結び方、着物の着方・形） ・描かれた場面 ・髪型 ○課題 庶民や絵師の身になって鑑賞しよう 浮世絵の描かれ方の違いから、美人がや歌舞伎役者が多く描かれたのはなぜか考えよう	〈関心・意欲・態度〉 ・進んで鑑賞に臨んでいるか（作品に対して／学級の仲間に対して／これまでの自分の姿勢に対して） 〈鑑賞〉 ・視点に基づいて比較することができるか。
2	○浮世絵が西洋の写実を中心とした絵画に与えた影響について理解し、自国の文化に誇りをもつことができる。	○ジャポニズムと呼ばれる西洋の表現作品を通して、浮世絵の表現のどんな点がその時代の造形に対する考え方に新しい視点を与えたのかを探る。 ・ゴッホ 歌川広重「亀戸梅屋敷」「大橋阿たけの夕立」の横写・タンギー爺さんの背景 ・モネ 「ラ・ジャポネーズ」 日本庭園 ・ロートレック他 ☆「詫び・寂び・粹・数寄・風流」……日本人の美意識・斬新な構図／日常生活からの題材／大胆な色遣い／背景の扱い（余白の美） ○課題 「モナリザ」の線の表現と「郵便配達夫ルーラン」の線の表現との違いは何だろう	〈関心・意欲・態度〉 浮世絵が伝わる以前の西洋の絵画表現と以後の表現との違いについて自分の考えをもつことができる 〈鑑賞〉 浮世絵のもつ日本美術の特徴をその造形的要素として理解することができる

本時の目標	絵師の身になって、描きたかった庶民の文化の表現があったことを理解し、浮世絵にいっそう興味をもつことができる。
つかむ	指導の手だて及び留意点 指 導 手 だ て 及 び 留 意 点 今後多くの人が鑑賞する作品だということをもふまえて鑑賞させてもらうことを事前指導 ☆ 直接手をふれない 事前調査で「興味がでない」と答えた生徒を指名 NHK日曜美術館「浮世絵」より 宮川辰春「江戸の三大有名な 絵師の側に視点をおく布石スクリーンが誰からも見えやすいようにイスを配置（DVD Projector）※光記念館学芸員の皆さんを紹介。 実物の鑑賞の仕方を指導（確認） 鑑賞の視点を示す 顔／髪型／着ているもの（着物／帯／文様）／手に持っている物／描かれた場面10点のうち3点を選んでまとめることを指示する（時間への配慮） プリント配布：10点のうちサムネール図／比較して気づいたこと／課題に対する記入欄 評価規準 A 主体的に作品を鑑賞、比較し、髪型や帯、着物の紋様のおもしろさをとりあげ、流行を創りだしていった絵師たちの違いいれにまで迫ることができる B 作品を比較しながら、似ている点、異なった点を整理し、絵師たちが流行をつくり出していたことを理解できる C 比較ができず、うわべの作品の見方しかできない
求める	つまづきへの対応：比較ができない生徒には、比較のひとつの視点（着物）について比較図を示す 学芸員にもつづきの生徒には視点を具体的に示す助言を与えていただく 発表内容について、黒板に並ごとに視点についての内容をもとめる 各班の気づいたことを認め、まとめる。 資料の提示 実物の場合は、その展示場所で説明。 別紙資料（光記念館作成による）を配付して説明。 必要に応じてプロジェクター使用。 事前調査で「興味がでない」と回答した生徒を含めて指名したい 本時の足場 昨年度と前時の浮世絵鑑賞学習の経験 ・主に江戸時代に制作されたこと ・憂世と浮世……時代背景 ・肉書画と版画とがあること ・版画の販売システム ・紋様、デザインについての理解
広げる	○今日の学習をふまえて、もう一度、実物の肉書画を鑑賞する 鑑賞した感想を発表する（2名 指名） ○まとめ ○次時の予告 これらの結果として、日本独自の美意識が育っていったが、それは西洋の画家達を驚かせた。今回は、現代の世界中の美術に影響を与えたことになった日本の美術の役割について学習する。（少しだけ学芸員さんから説明を聞く） a 一瞬を切り取ったような動き d 斬新な構図 e 背景のない絵 ○学芸員さんにお礼を言い、挨拶をして授業を閉じる

浮世絵ってなんだろう？

……見たことも聞いたこともある「浮世絵」
…………でも、説明しようとする、うまくできないような気がしますが、どうですか？
◎ そこで、ちょっと、次の問いかけに答えてください。（あてはまるものに○をつけて下さい）

3年 組（ ）氏名

Q 1 あなたは「浮世絵」を本などで見たことがありますか？
はい → 見たことがある人：何で見ましたか？ 教科書
いいえ その他の本
テレビ
実物

Q 2 「浮世絵」に興味や関心がありますか？
はい →
いいえ それはどうしてですか？ →

Q 3 「浮世絵」と聞いてイメージするのはどんな絵ですか？次の中にあれば選んで○をつけて下さい。

Q 4 「浮世絵」のことで知っていることはどんなことですか？

Q 5 「浮世絵」について知りたいことや学びたいことなどをどんなことでもよいので書いて下さい。

Q 6 浮世絵を描いた人（絵師）の名前で、知っているものに全部○をしてください。また、ここに書かれていない名前を知っている人はそれを（ ）に書いてください。（何人でもよいですよ）

師宣 清信 安度 安知 長春 政信 春信 写楽 清長 歌麿 (二代) 歌麿
国芳 豊国 (二代) 豊国 (三代) 豊国 国政 北斎 広重 (二代) 広重 (三代) 広重
()

浮世絵はおもしろい

月 日 () 学年 組 () 氏名

○ 今日の課題

課題について感じたこと・考えたこと など

評 価



「三世尾上菊五郎のいがみの権太」作者不詳



「三美女と犬」雪屋主人



「立ち美人」作者不詳



「枕持つ女」月岡雪鼎



「長煙管をもつ遊女」奥村政信



「人形を遣う娘」作者不詳



「雪中傘さし美人」二代 鳥居清満



「遊女」礫川亭一指



「傘さし美人」歌川国久



「掛け軸を見る三美人」作者不詳

浮世絵はおもしろい

学年 組 ()

○ 以前より浮世絵に興味をもてましたか？ (とても ・ まあまあ ・ あまり)

○ 授業の振り返り
次の評価規準のあてはまるものを○して下さい。

<評価規準>

A 進んで鑑賞できた。浮世絵の表現のおもしろさに気づいたり、流行を創り出していった絵師たちの思いやそれを視る庶民の思いを想像して鑑賞を楽しむことができた。

B 作品についていろいろなことがわかり、興味をもって鑑賞することができた。

C 新しい発見や知ることもなく、興味がもてなかった。

○ 今日、本物の浮世絵を鑑賞して、感じたことや思ったこと、学んだことなどを自由に書いて下さい。

事後アンケート結果について

○以前より浮世絵に興味がもてましたか？（27名用紙回収の中）
とても 9 / まあまあ 18 / あまり 0

○授業の振り返り
A 16 / B 11 / C 0

○感想

- ・普段は、あんなに近くで見れないので、とても貴重な体験ができて良かったです。もっと絵の材料についても知りたいと思いました。
- ・浮世絵で最初は興味がなかったけど、この時間を通して浮世絵についていろいろわかったし、浮世絵の良さがわかったし、興味をもって鑑賞することができた。
- ・今の絵より前よりたくさんことが知れた。
- ・初めはぜんぜん興味をもてなかったけど、色づかいにもいろいろな理由があることが分かったし、ただのかわいい人とかではなく、ファッションのこともやっていたので前よりは興味をもつことができました。
- ・日本の美術のレベルが高くてすごいと思った。
- ・あまり浮世絵について関心がなかったけど、その当時の様子とかも知れたし、服にも工夫した作りがあることがわかりました。
- ・ぼくは、刀をもったのが良いと思って、他のものもみんなの意見で学ぶことがたくさんあって、色づかい、物などの工夫があることがわかりました。
- ・本物の浮世絵を見て、昔の人はいろいろ絵に興味をもって、今のポスターのようにして見ていたんだな、と思った。浮世絵にはその当時の有名な人がのっていて、浮世絵を見るだけで当時の有名人が分かるなど思った。
- ・浮世絵について、まったく興味がなかったけど、実際に自分で好きな絵について考えてみたりしてみたら、少し面白いと思いました。
- ・浮世絵にはあまり関心がなかったけど、庶民にとっては有名人だったとか、着物の模様や色づかいに意味があったりして、細かいところまで知ることができました。
- ・今までは人とかばんかだったけど、景色のあるものもあって面白かった。
- ・私は、はじめ浮世絵にあんまり興味がなかったけど、今日の授業で前よりは浮世絵に興味もてたので良かったです。実物を見ると、細かいところまで描いてあったり、色づかいを工夫していたりと、じっくり見るとおもしろいことがあるんだなーと思いました。
- ・浮世絵は、いろいろあって様々姿があってもおもしろいと思った。浮世絵は細かい所までこだわりがあったりしていてすごいと思いました。
- ・服装や人数や構図を変えるだけで、まったく違う雰囲気になってすごいと思いました。江戸時代の人にとっての流行を知るためのものと知って、絵だったのかと思いました。
- ・思った以上にいろんなものがあって、ビックリしました。もっといろんなものをみたいと思いました。
- ・ぼくは最初は浮世絵の面白さなど何もわからなくて、あまり勉強する気にもならなかったけれど、実際に見てみたり話をいろいろと聞いたりしたら、浮世絵のおもしろさや何で庶民とかが興味をもったかなどわかったので良かったです。そして、きものなどのもようがなんでそういうふうなのか、わかって良かったです。今日の授業をうけて少しはきょうみをもててよかったし、もう少し勉強してみたいと思いました。
- ・昔の流行が浮世絵に表れているなんてすごいと思いました。あまり興味がなかったんだけど、興味をもつことができました。
- ・違う視点から見ると、今まで分からなかった細かい所は分かったので良かったです。日本の伝統文化なので

大切にしていきたいと思った。

- ・浮世絵は前にも何度か見たことがあったけど、今まではそこまで興味を持っていませんでした。でも、今日、本物をあらためてみんなと一緒に鑑賞してみて、今まで知らなかったり気づかなかった浮世絵のおもしろさを感じることができました。浮世絵は昔の人にとってアイドルなどのポスターやファッションの手本のような存在だったから、多くの人から注目されていたんだなあと思いました。
- ・浮世絵をどんなふう楽しんだのかということについて知れました。描き方が分からないので、そこを知りたいです。また、今で言う雑誌の役割だったということにおどろきました。
- ・あんなすごい絵が見えるなんて思ってもいなくて、とってもおどろきました。私は、はじめ絵などに興味がなくて昔のこととかもあんまり興味になかったけど、今日、本物を見て少し興味をもつことができたかなと思いました。でも、まだ知らないことなどがあるので、もっと知れたらいいなと思います。
- ・浮世絵をこんなにじっくり近くで鑑賞したのは初めてでした。よく見てみると、お歯黒がしてあったり、着物の模様が違ったり、まゆげがそってあったりして、いろいろな所に工夫がされていておもしろかったです。また、浮世絵に描かれているものは、その当時はやっていたもので、今でいうとファッションなどの雑誌の役割をしていたと聞いて、なるほどなあ、と思ったし、今なら写真でとればできるけれど、昔はわざわざ描いていたなんてすごいなあ、と思いました。浮世絵のおもしろさが少し分かった気がしました。
- ・本物の浮世絵を見て、絵の描き方とか現代と全く違うと思って、私が見た中では、人物の線（顔や足など）は細井線がかいてあって、着物や持ち物は太い線がかかれていました。そういうことも昔の画風なのかなと思ったりしました。日本画の画材で、石をけずって出た砂をつかっているということと、その砂の粒の大きさに色を少しずつかえていたと後からきいて、すごいなと思いました。細かくけずると白っぽくなってくるといことも学びました。私はもとも浮世絵に興味があったので、とても貴重な時間を過ごさせていただいて楽しかったしうれしかったです。あと、画家さんは、どこかで勉強をして、ああいった絵をかけるようになったのか、自己流でかいたのかということが気になりました。
- ・浮世絵は、たくさんのかざわりや、今で言うファッション誌などの役割があり、人気があるのもうなずけました。
- ・私は初めあまり浮世絵に興味がなかったけど、今日の授業で浮世絵を見て色づかいとかが好きになって少し興味をもちました。
- ・はじめは古い絵なので、全く興味がなかったけど、今日の授業を通して、まあまあ興味をもって理解できたし、浮世絵が流行した理由もわかった。
- ・浮世絵がなぜ人気でていた理由で、今のアイドルみたいなかんじで、ポスターみたいになっていて、昔の人を人気にさせていたんだなあと思いました。それぞれの絵を見ると、すごく細かいところまで描かれていて、すごくきれいでした。

授業日：平成19年 月 日

【光記念館出張美術館】アンケート

中学校 年 組 男・女

Q1：世界でも有名な浮世絵師、「北斎」・「広重」・「歌麿」を知っていますか？
(はい・いいえ)
※ はい→ Q2へ/いいえ→ Q4へ

Q2：“Q1”で「はい」と答えた人のみ解答下さい
「北斎」・「広重」・「歌麿」の誰を知っていますか？
(北斎・広重・歌麿・全員知っている)

Q3：“Q1”で「はい」と答えた人のみ解答下さい
3人の本物を見た事がありますか？
(北斎・広重・歌麿・全て見た事がある・全て見た事がない)

Q4：今までに肉筆浮世絵を見た事がありましたか？ (はい・いいえ)

Q5：今回の「出張美術館」以前に浮世絵に興味がありましたか？ (はい・いいえ)

Q6：今回の「出張美術館」で浮世絵に興味を持ちましたか？ (はい・いいえ)

Q7：今回、日本の画材(顔料など)を学び、興味をもちましたか？ (はい・いいえ)

Q8：今回、学芸員(美術館の仕事)について学び、興味をもちましたか？ (はい・いいえ)

Q9：高度な技術と感受性豊かな日本の文化を学び、どう思いましたか？ (いくつでも)
・誇りに思う
・もっと勉強したい
・興味を持った
・全く興味がない
・その他 ()

Q10：日本の伝統文化を大切にしたいと思いますか？ (はい・いいえ)

Q11：今回の授業の中で一番興味を持ったのはなんですか？
・「お江戸のファッション」の冊子 (P) ※ 興味のあったページをお書き下さい
・日本画の画材
・学芸員の仕事
・その他 ()

Q12：今一番、興味のある事はなんですか？
()

Q13：感想

平成19年度 光記念館出張美術館アンケート用紙

東山中学校実施学年アンケート結果(121名)

Q1:「北斎」・「広重」・「歌麿」を知っているか ※ はい→ Q2へ/いいえ→Q4へ
はい 116人
いいえ 5人

Q2:「北斎」・「広重」・「歌麿」の誰を知っているか(“Q1”で「はい」と答えた人のみ解答)
北斎 114人
広重 72人
歌麿 54人
全員知っている 43人

Q3:3人の本物を見た事があるか(“Q1”で「はい」と答えた人のみ解答)
北斎 47人
広重 12人
歌麿 5人
全て見た事がある 5人
全て見た事がない 64人

Q4:今までに肉筆浮世絵を見た事があるか
はい 57人
いいえ 64人

Q5:今回の「出張美術館」以前に浮世絵に興味があるか
はい 28人
いいえ 93人

Q6:今回の「出張美術館」で浮世絵に興味を持ったか
はい 110人
いいえ 11人

Q7:今回、日本の画材(顔料など)を学び、興味をもったか
はい 111人
いいえ 10人

Q8:今回、学芸員(美術館の仕事)について学び、興味をもったか
はい 60人
いいえ 61人

Q9:高度な技術と感受性豊かな日本の文化を学び、どう思うか(複数回答)
誇りに思う 76人
もっと勉強したい 17人
興味を持った 82人
全く興味がない 2人
その他 3人
勉強しなければならないと思った
見るだけでなく手に取っみたい
世界にも日本の絵が広がっているのすごいと思った

無回答 1人

Q10:日本の伝統文化を大切にしたいと思うか
はい 119人
いいえ 2人

Q11:今回の授業の中で一番興味を持ったこと
「お江戸のファッション」の冊子(授業にて使用) 41人 P12. 16など が人気があった
日本画の画材 72人
学芸員の仕事 2人

その他

無回答

2人

4人

Q12: 今一番、興味のある事(抜粋)

音楽、自分のなりたい職業、読書、ファッション、浮世絵をどう書いたのか など

Q13: 感想(抜粋)

今まで浮世絵は何を表しているかなど、細かいところは分かりませんでしたが、今日の授業で江戸時代の着物の様子が浮世絵は草や石で描かれている事など、浮世絵について良く知れたのでよかったです。

今回の授業はとても興味を持ったし楽しかったです。色々なことを知れて良かったです。

日本の文化に触れることが出来て良かった。

袖とか帯とか、それぞれ描かれているものが違っていていつの時代でも、女性はお洒落をしたんだと思いました。とても面白かったです。

日本の文化や生活習慣が良く分かって楽しかったです。

おわりに

5年間の出張美術館についてまとめてみたが、私達が常に課題としてきた事は、本物を通していかに日本文化に誇りを持たせ、興味湧く授業を行うかという問題であった。子供達の日常において芸術に触れる機会は極めて少なく、日本美術については殊更である。岐阜県高山市が誇る一位一刀彫りや、飛騨刺し子、春慶塗り等優れた地域文化も継承していかなければならない。優れた美術品に触れる事で日本文化・地域文化に対する目が養われ関心が高まるといえる。地域に根ざした生涯学習・教育普及活動は、博物館・美術館が地域に親しまれ、魅力あるものになる一歩と考える。出張美術館を通して光記念館が地域とさらに連携を深め、ともに発展していけるよう今後も努力したい。

謝辞

当事業を行うにあたり文化庁はじめ、各教育委員会、学校長、教員の皆様には並々ならぬご理解とご協力を賜りました。5年間無事に継続出来たことは、偏にご指導の賜物と拝します。関係機関・各位に対し深甚なる感謝を申し上げます。